

東京都立大学

留学生全数調査 2022

報告書

国際センター

2023 年 4 月

はじめに

東京都立大学国際センターは、大学の教育研究およびキャンパスの国際化推進を目標とした部署です。この目標には外国人留学生に対する各種支援も含まれます。留学生に対して効果的に支援を実施するためには、所属する留学生のニーズを把握する必要があります。本調査報告書は留学生のニーズを把握するのみならず、潜在的なニーズを掘り起こすことに対しても有効であると考えます。

本調査においては、入学するまでの経緯、学修および生活の両面で抱える固有の悩みを把握しようとするとともに、経済状況、ソーシャル・サポート、文化適応といった重要な側面にフォーカスして留学生の実態を明らかにしようと努めています。本調査の結果、国際センターと所属する留学生との支援を通じたコミュニケーションがより円滑になることを期待したいと思います。

改めて、本調査に協力してくれたすべての留学生諸君ならびに本調査を実施してくれた東京都立大学国際センター伊藤大将准教授、壁谷千穂特任助教、松本明日香特任助教に心より感謝申し上げます。

東京都立大学国際センター長 野口昌良

概要

東京都立大学では、2年に1度のペースで学生生活実態調査を行い、報告書を公開している。学生生活実態調査は、東京都立大学の全学生を対象にしており、留学生も調査対象である。しかし、アンケートは日本語で実施されるため日本語ができない留学生は回答ができない点、国内学生と留学生の回答を分けずに報告している点により、留学生の生活実態の把握ができていないと言いき難い。国内学生と留学生では、学習面や生活面で抱える困難や、困難への対処法、支援を得られる人物が異なると推測される。東京都立大学に通う留学生の実態を把握するため、2022年10月1日の時点で東京都立大学に籍を置く全留学生を対象に本調査を実施した。アンケートでは、東京都立大学を選んだ理由（entry）、在学中に直面する困難、卒業後の進路（exit）について尋ねた。本報告書では、それぞれの質問に対する一変量の結果を報告する。どのような特徴を持つ学生がどのような困難を抱えているかといったことは、2変数以上の関連を検討する必要がある。本報告書は、変数間の関連を分析するのではなく、それぞれの質問の記述統計を提示しており、データブックとしての使用を期待する。

調査概要

2022年10月1日時点での学部生、大学院生、科目等履修生、短期留学生を含む留学生数は606名だった。本調査はそのすべての留学生が対象である。アンケートを始めても終えなかった回答者、終えていても答えていない質問が多数ある回答者（途中でアンケートへの回答をやめたと思われる）はデータ分析から省いた。本報告書の分析対象者数は、計194名で、日本語での回答者が113名、英語での回答者が81名であった。ただし194名全員がすべての質問に回答しているわけではないため、それぞれのデータを提示する際に有効回答数を示した。

調査は2022年10月28日から始め、2023年2月19日が最後の回答であった（アンケートには引き続き回答できる）。松本（2023）が本調査の概要と11月8日時点での数値を報告しているので、そちらも参考にしてほしい。欠損値の取り扱いが異なるために注意が必要だが、本調査に含めたサンプルを見ると、10月28日から11月8日までに194名中175名が回答した（本サンプルの約90%）。

質問項目

本研究では、1)東京都立大学に在籍する留学生の生活実態を把握すること、2)学修・生活面において、留学生が直面する困難を明らかにすること、3)留学生の職業志向を明らかにすること、の3つを目的とした。この目的を達成するため、学生のソーシャル・サポートの有無、日本社会への適応(acculturation)、職業志向(career aspirations)に焦点を当てた。

東京都立大学留学生全数調査は、2022年を第一回として、今後は4年に1度のペースで実施していくことを予定している。アンケートは、“Core”と呼ぶ質問項目と“Topical Module”

と呼ぶ質問項目に分けられる。Core の質問項目は、核を担う質問として、今後の東京都立大学留学生全数調査で必ず聞き、定点観測を行う質問のことを指す。一方、Topical Module とは、その年に特に焦点を当てて尋ねる質問項目を指し、実施年ごとに注目すべきトピックを選んで質問項目を投入する。Core の質問項目は、属性(学部学科、留学形態、国籍、居住地、日本語能力)、経済的側面(収入源、アルバイト状況、交通手段)、友人関係(友人数、同国人組織の有無)、学習面における困難、生活面における困難、将来設計(キャリアプラン)を想定した。本年度の Topical Module は、ソーシャル・サポート、外国人の社会適応、職業志向とし、ソーシャル・サポートでは病気のと看、お金に困ったとき、悩み事を相談したいとき等に、頼れる人がいるのかを測定した。社会適応では、どのくらい日本語で物事を考えるか、どのくらい日本の食事・音楽・メディアを消費するか、どのくらいいい関係を日本人と築けているか等を測った。職業志向では、日本で働きたいと思うか、働ける可能性はどれくらいあるかをとらえた。

結果

本報告書は、1) 回答者の属性、2) 言語能力、3) 東京都立大学に入学するまでの経緯、4) 東京都立大学での学業と生活、5) 悩み、6) 経済状況、7) ソーシャルサポート、8) 文化適応、9) 卒業後の進路のセクションに分かれている。グラフの見出しのカッコ内の数字は、サンプル数を示す。マトリックス形式の質問については、選択肢の横のカッコ内にサンプル数を提示した。

調査実施者

本調査は、国際センターの伊藤大将(准教授)、松本明日香(助教)、壁谷千穂(助教)の3名が行った。伊藤は、本報告書で使ったデータの分析、グラフの作成と執筆、アンケートの質問項目の提案、アンケートのオンライン化を担当した。松本は、アンケートの質問項目の提案とまとめ、倫理審査の書類の準備、アンケート回答の願いの送付をはじめとするデータ回収の管理を行った。壁谷はアンケートの質問項目の提案を行った。東京都立大学国際センターが出版する国際学報(2023)に、松本は本調査の手順やデータ回収作業、回答者の属性データについてまとめ、「東京都立大学外国人留学生調査プロジェクト2022」と題して実践報告をまとめ

た。本報告書では取り扱わないが、アンケート調査と並行して質的調査も実施した。壁谷はフォーカスグループを行い、留学生が困難に直面した際の留学生相談室の利用を訪ねた部分について「外国人留学生の留学生相談室に対する認識と利用について」というタイトルで実践報告を執筆した。本報告書に加え、そちらも参照していただきたい。

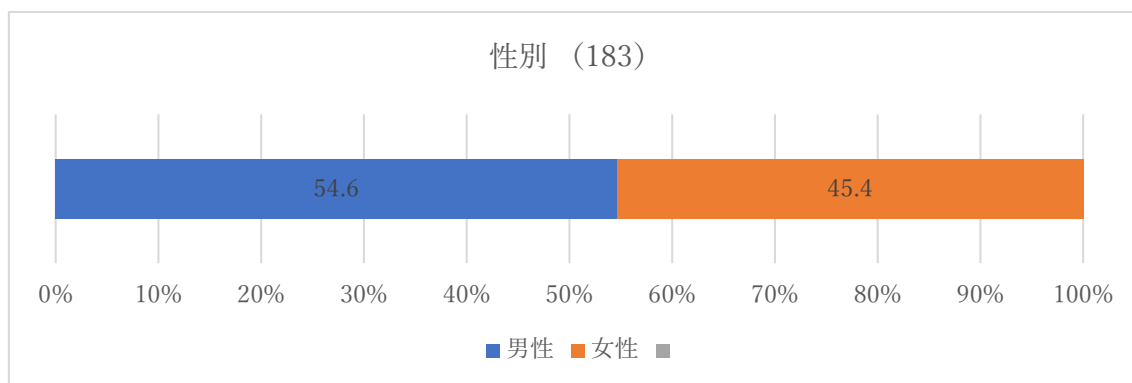
目次

回答者の属性	6
言語能力	10
東京都立大学に入学するまでの経緯.....	13
東京都立大学での学業と生活.....	17
悩み.....	19
経済状況	20
ソーシャルサポート	24
文化適応	28
卒業後の進路	30
終わりに	32

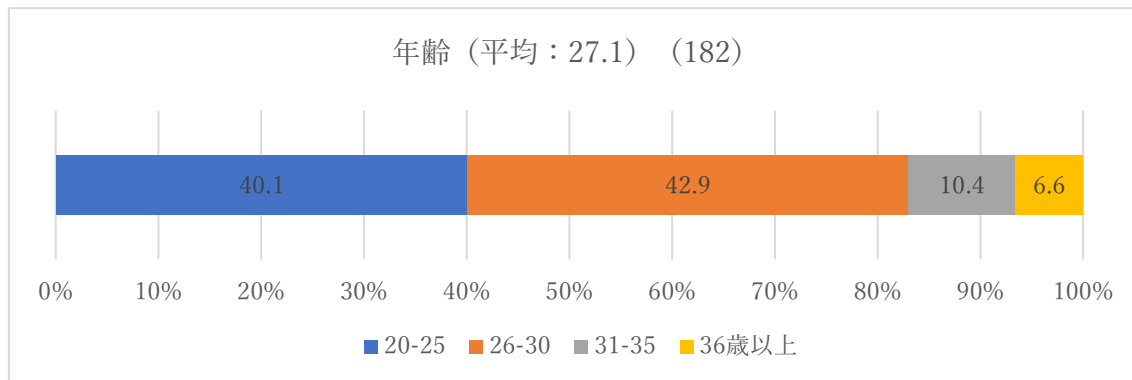
回答者の属性

まず初めに、留学生全数調査に回答してくれた学生の特徴を以下に提示する。注視すべき点は、本調査の回答者は大学院生が多い点だろう。2022年10月1日時点での交換留学生を含む学部生数は163名（約27%）、研究生や科目等履修生を含む大学院生数は443名（約73%）だが、本調査では学部生は約19%、大学院生は81.4%である。

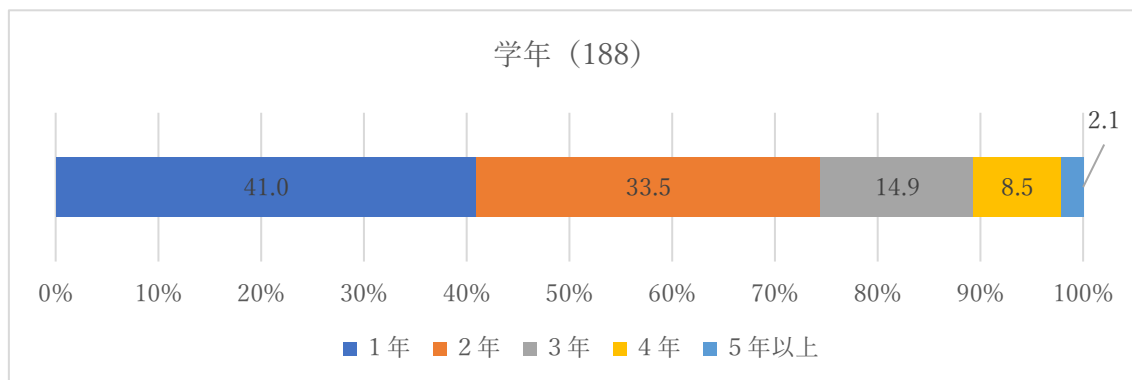
【性別】



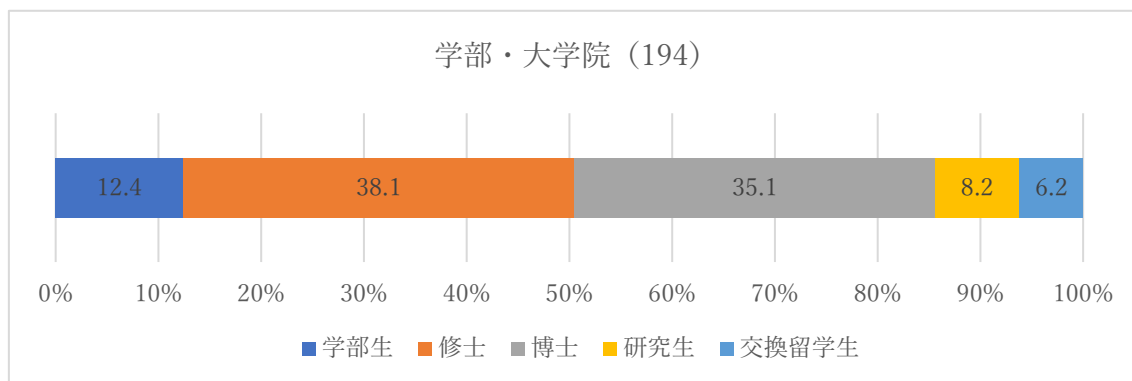
【年齢】



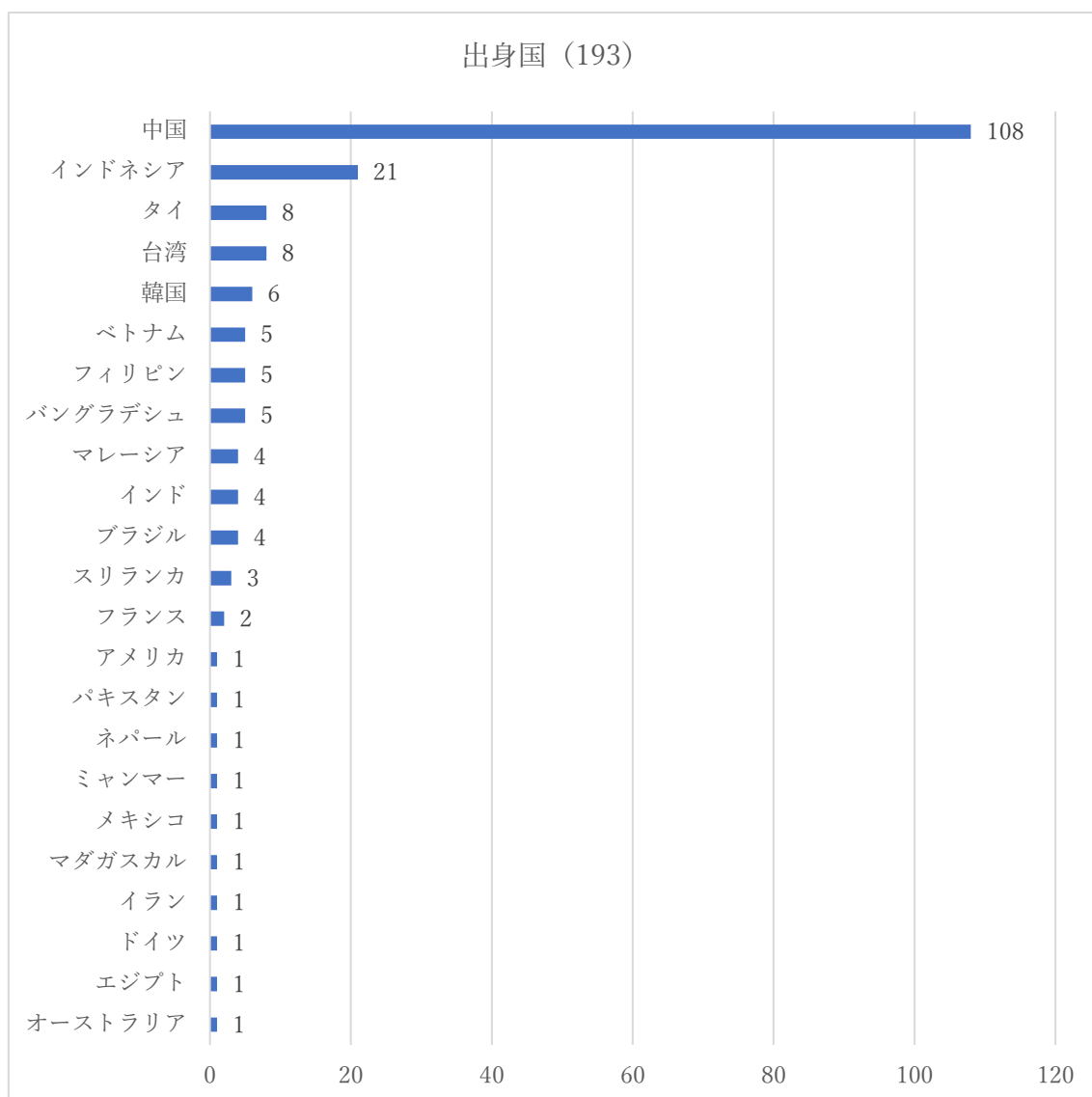
【学年】



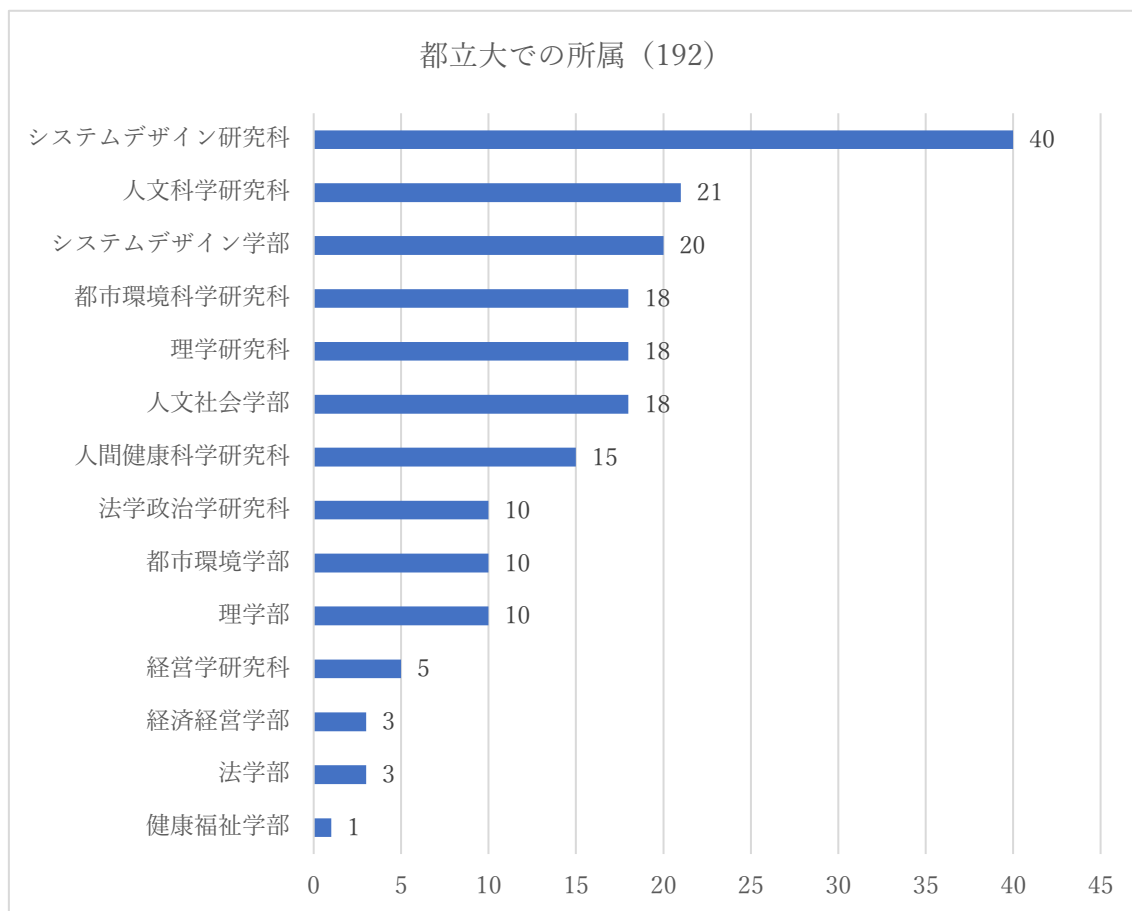
【学部・大学院】



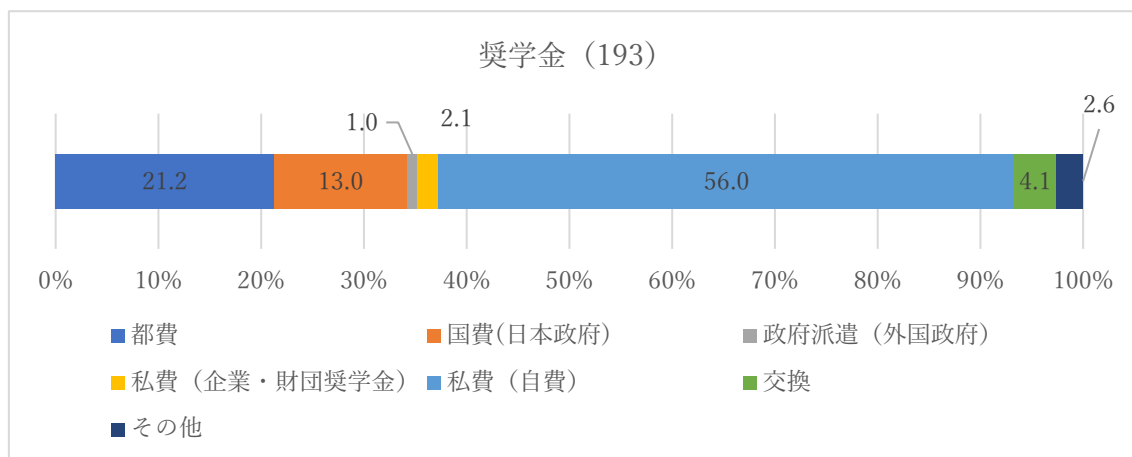
【出身国】 グラフ内の数値は、%ではなく人数である。



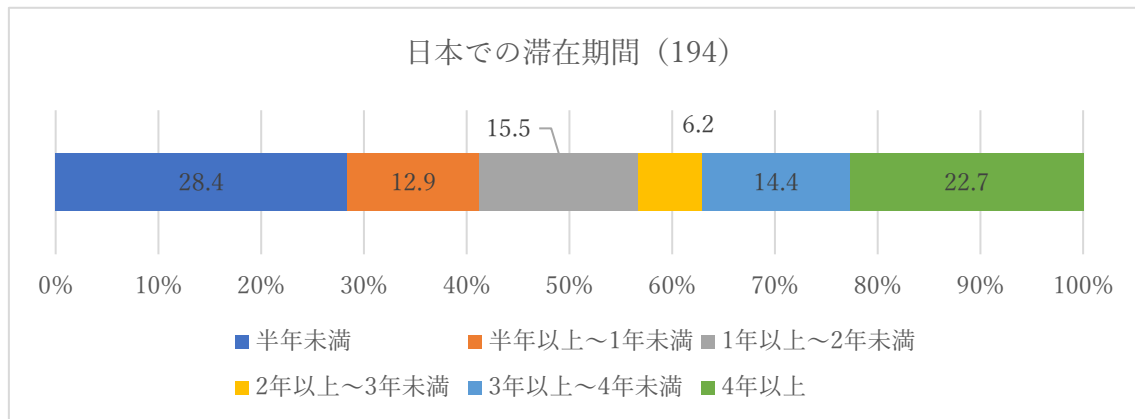
【都立大での所属】 グラフ内の数値は、%ではなく人数である。



【奨学金】



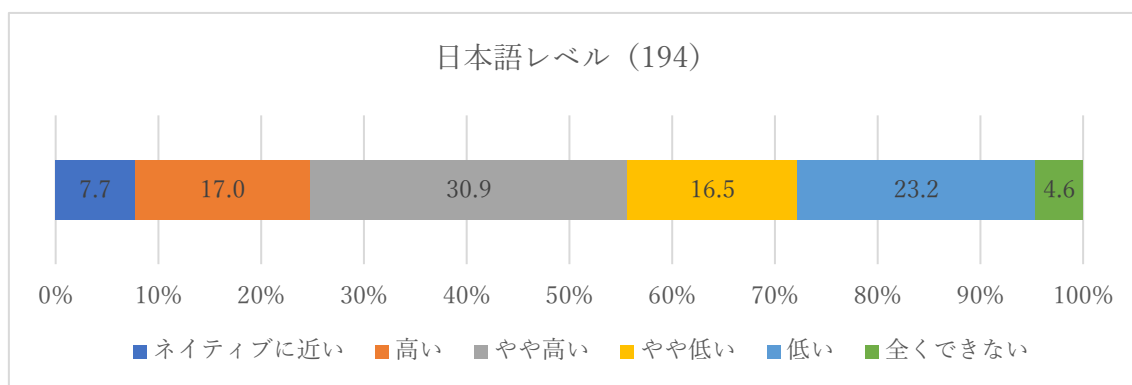
【日本での滞在期間】



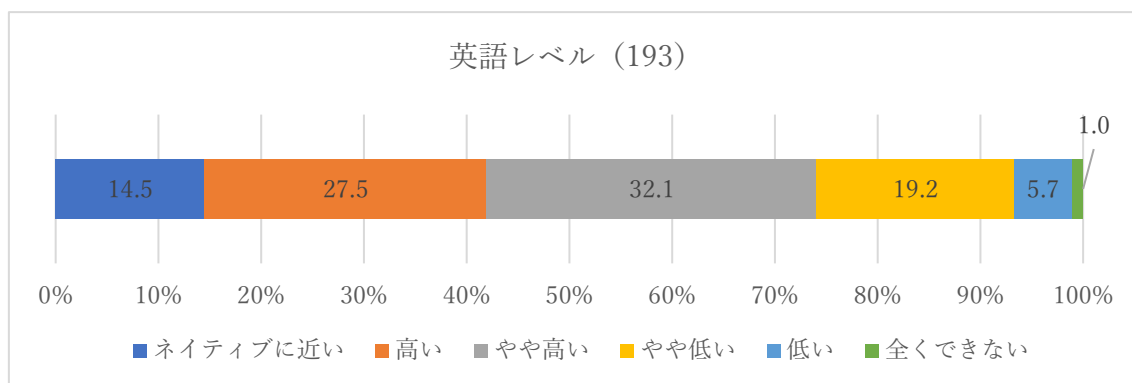
言語能力

日本語レベルと英語レベルのクロス集計を見ると、日本語レベルと英語レベルのどちらも「やや高い」や「やや低い」を選択した学生が多い。英語レベルが高めで日本語レベルが低い学生はいるが（約 19%）、英語レベルが低めで日本語レベルが高い学生は少数であった。

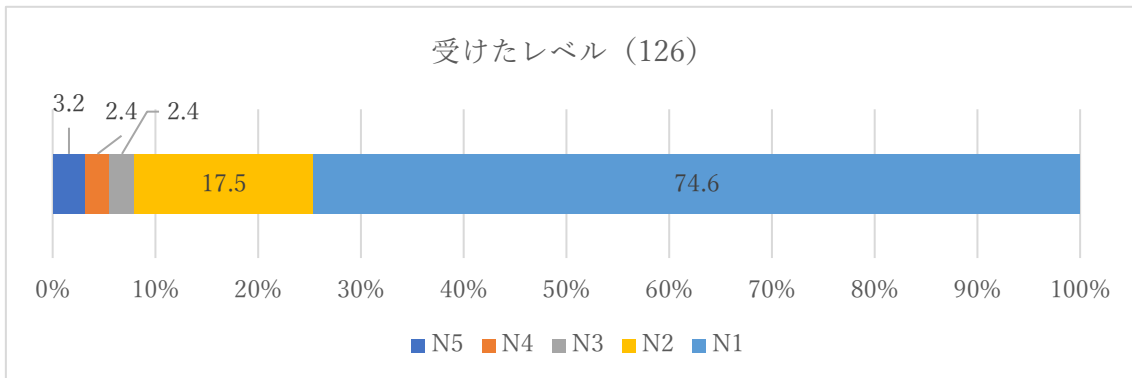
【日本語レベル】あなたの日本語での会話、理解、読み、書きのレベルを選択してください。



【英語レベル】あなたの英語での会話、理解、読み、書きのレベルを選択してください。

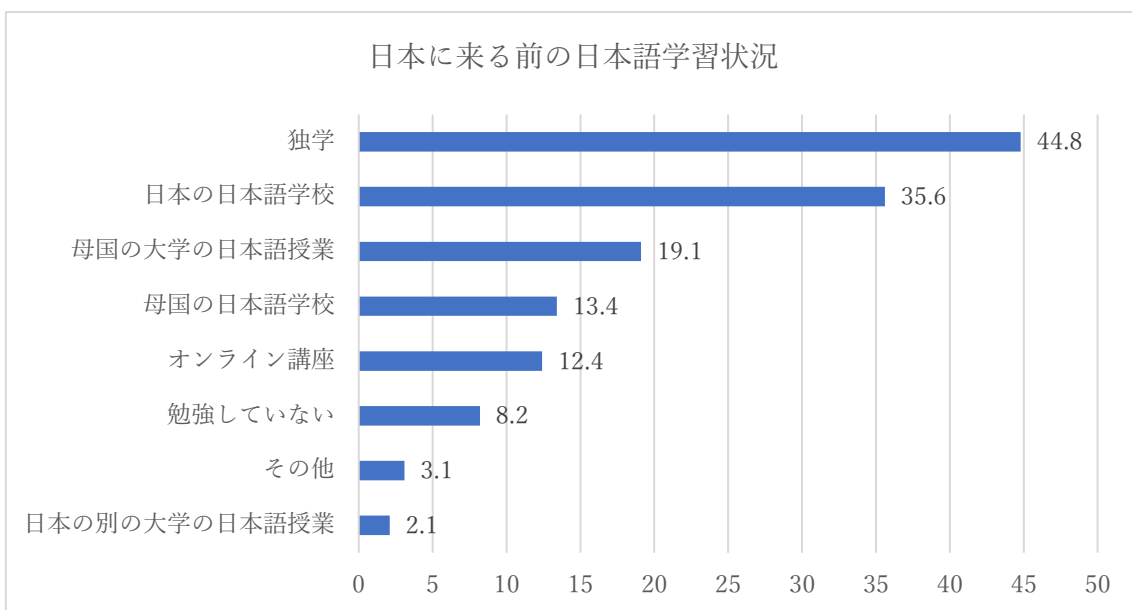


【日本語能力試験】（日本語能力試験の）どのレベルの試験を受けましたか。一番最近のものについて教えてください。

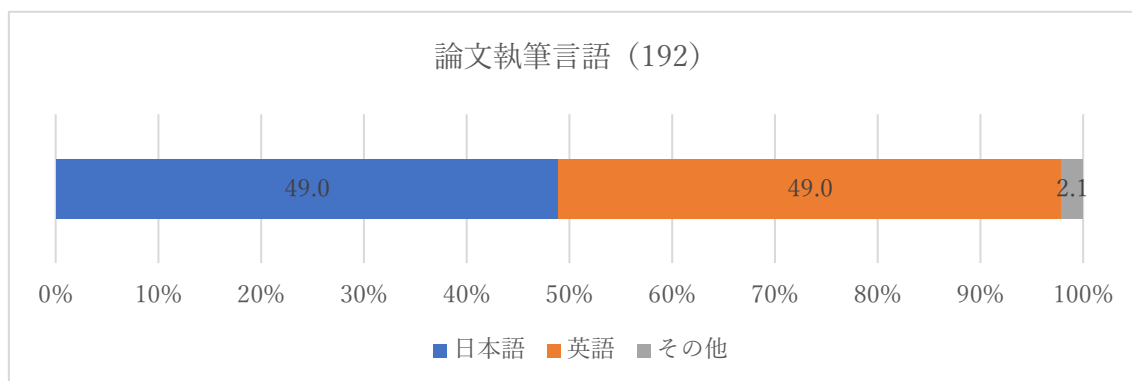


【日本語学習】都立大学入学前に日本語をどのように勉強してきましたか。（複数選択可）

数値は 194 名中、それぞれの選択肢を選んだ割合を示した。



【論執筆言語】卒業論文、修士論文または博士論文の執筆予定言語を教えてください。交換留学生の場合は期末レポートの主な執筆予定言語を教えてください。



東京都立大学に入学するまでの経緯

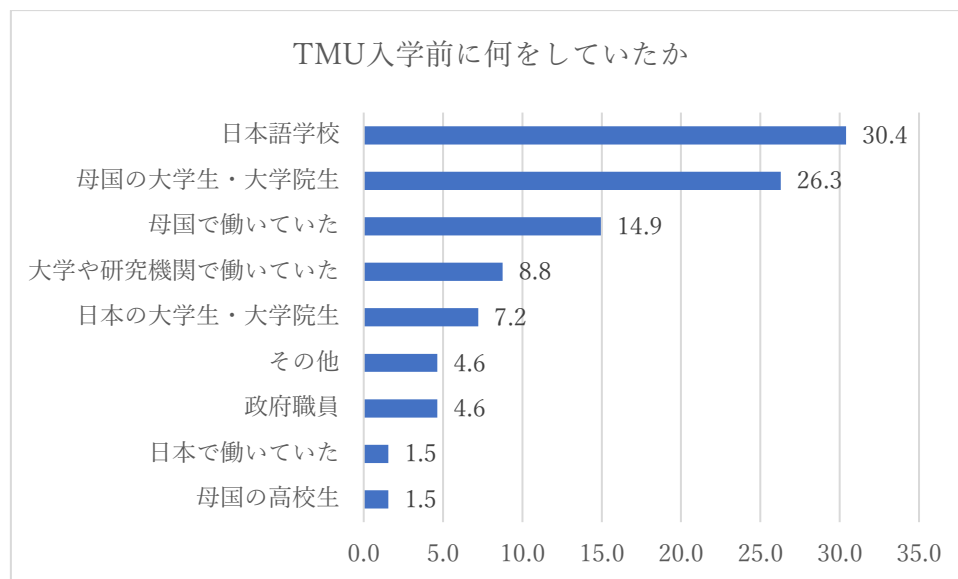
このセクションでは、なぜ世界中の留学先から日本を選んだのか、日本の中から東京を選んだのか、日本の大学の中から東京都立大学を選んだのか、東京都立大学に至るまでの経緯についての結果を報告する。

日本を選択した理由としては、日本への関心、教育・研究力の高さに加え、治安の割合が高かった。東京に対するイメージは、多様性、文化・娯楽、衛生面、安全性において高評価だったが、生活費に関しては評価が低い。東京都立大学を知るきっかけになったのは、インターネットと知人の紹介・個人的つながりが多く、都立大学を知る人の評価の大切さが表れた結果となった。東京都立大学を選んだ理由としては、教育・研究面のほか、東京都にあるという立地面が大きく影響していた。

日本への留学に関しては、約90%が「満足」「やや満足」しており、東京都についても約86%が「満足」「やや満足」しているという結果が得られた。

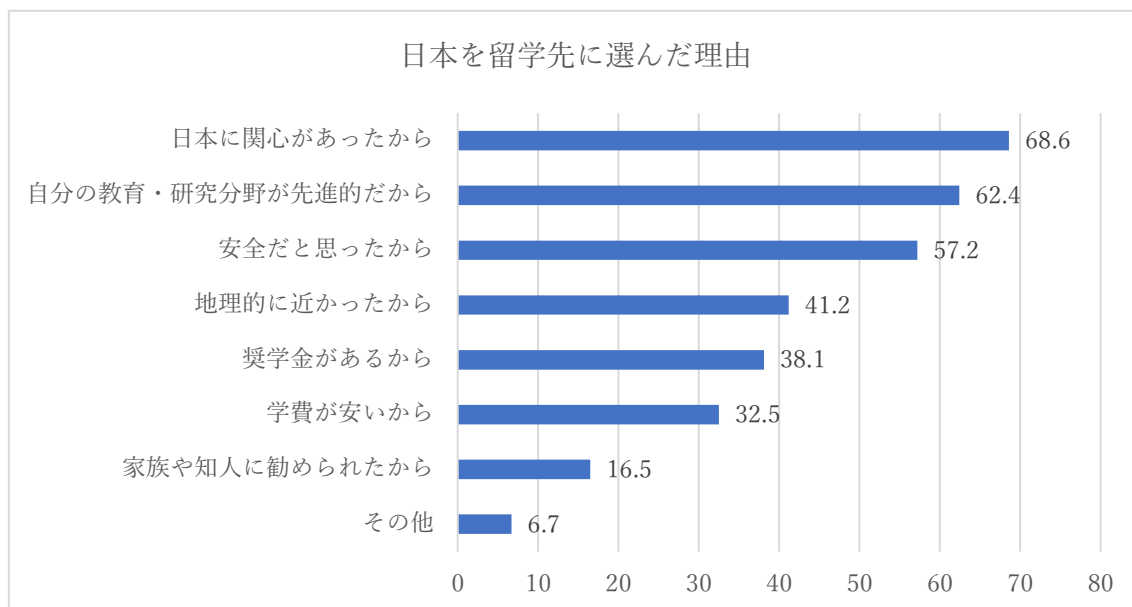
【東京都立大学に入学する前に何をしていたか】あなたがTMUに入学する前に何をしていましたか？以下の場所で勉強や仕事をしていましたか？

数値は194名中、それぞれの選択肢を選んだ割合を示した。

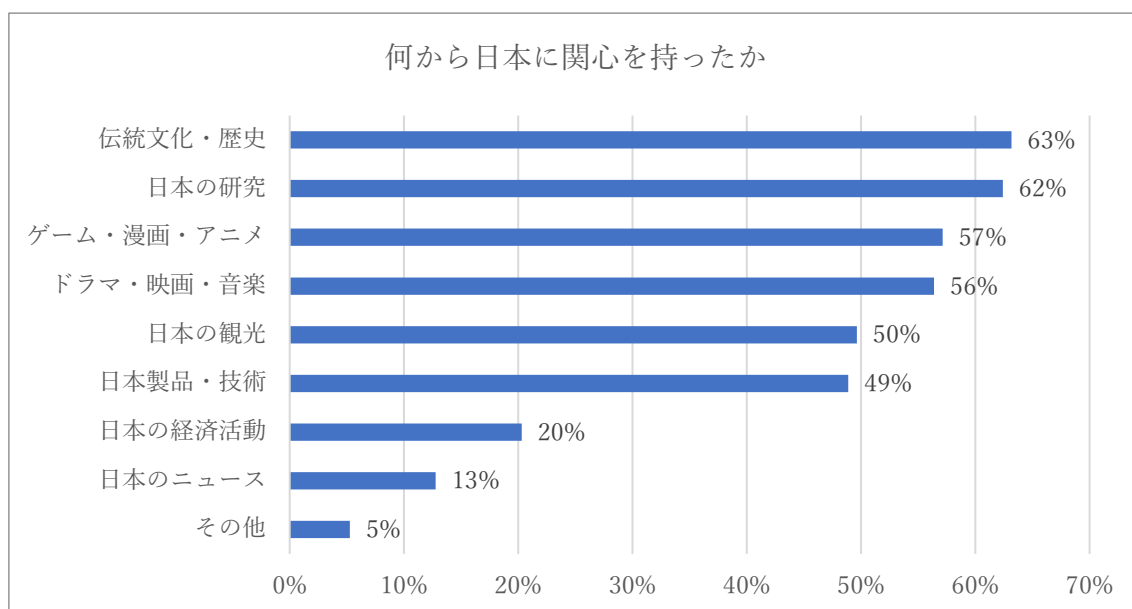


【日本を留学先に選んだ理由】なぜ世界各国の中で日本を留学先にしたのですか？（3つまで選択可）

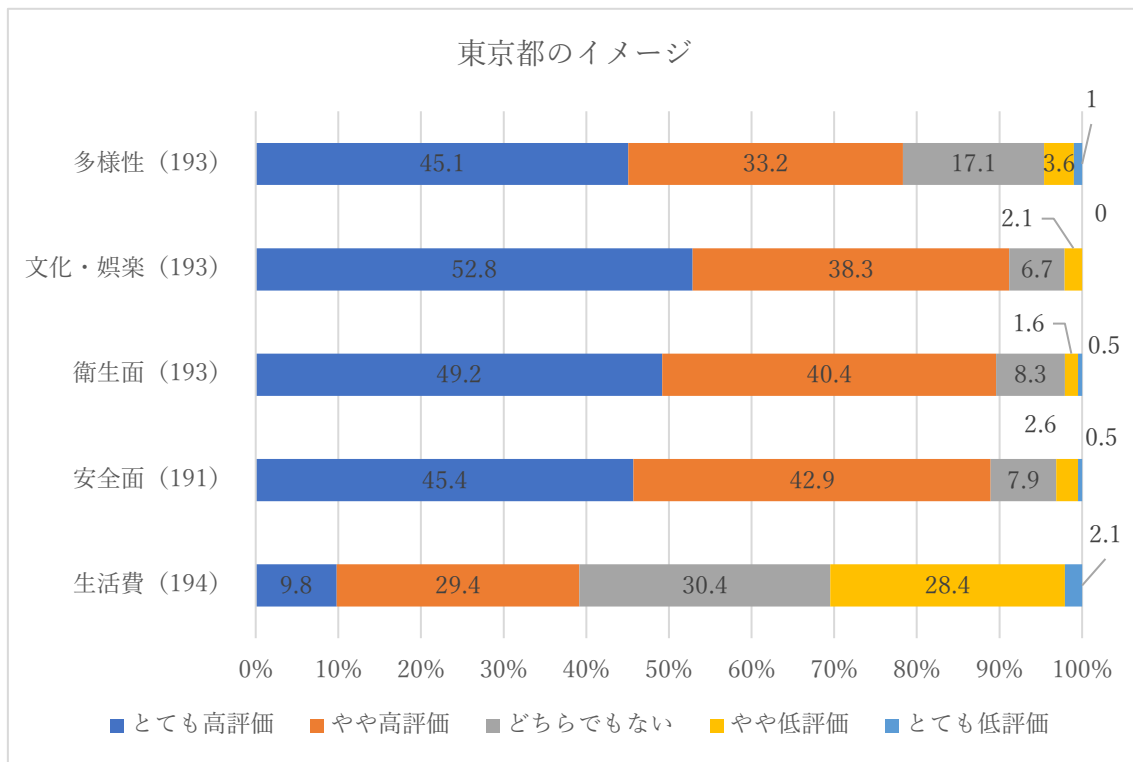
数値は 194 名中、それぞれの選択肢を選んだ割合を示した。



【日本への関心】（上記の質問で「日本に関心があったから」と答えた 133 名に質問）何から日本に関心を持ちましたか。（3つまで選択可）

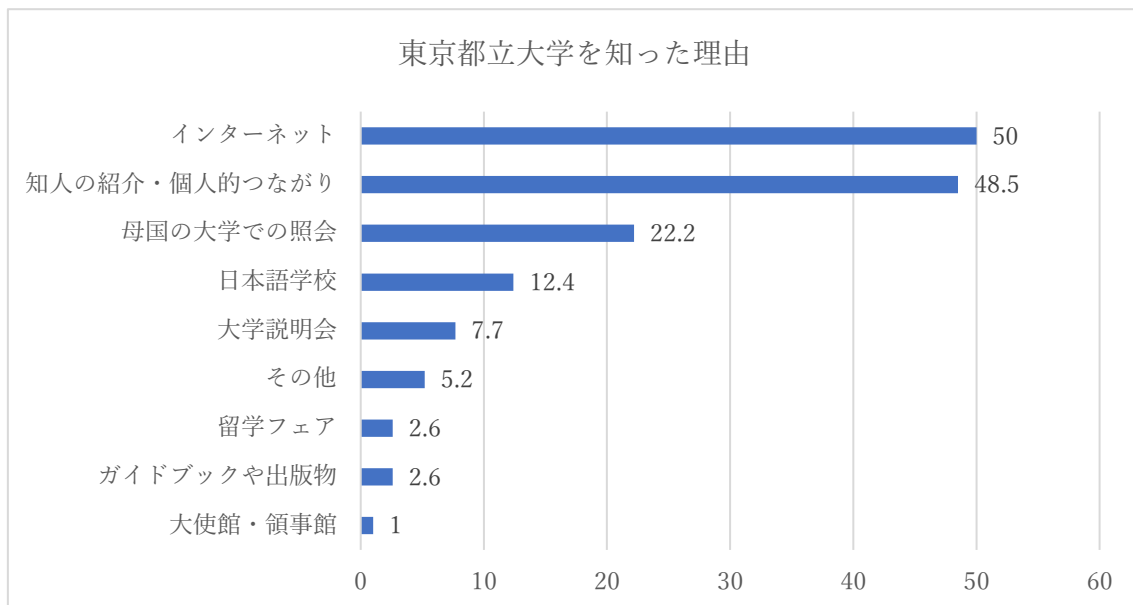


【東京都のイメージ】 東京都のイメージについて教えてください。5段階で評価してください。



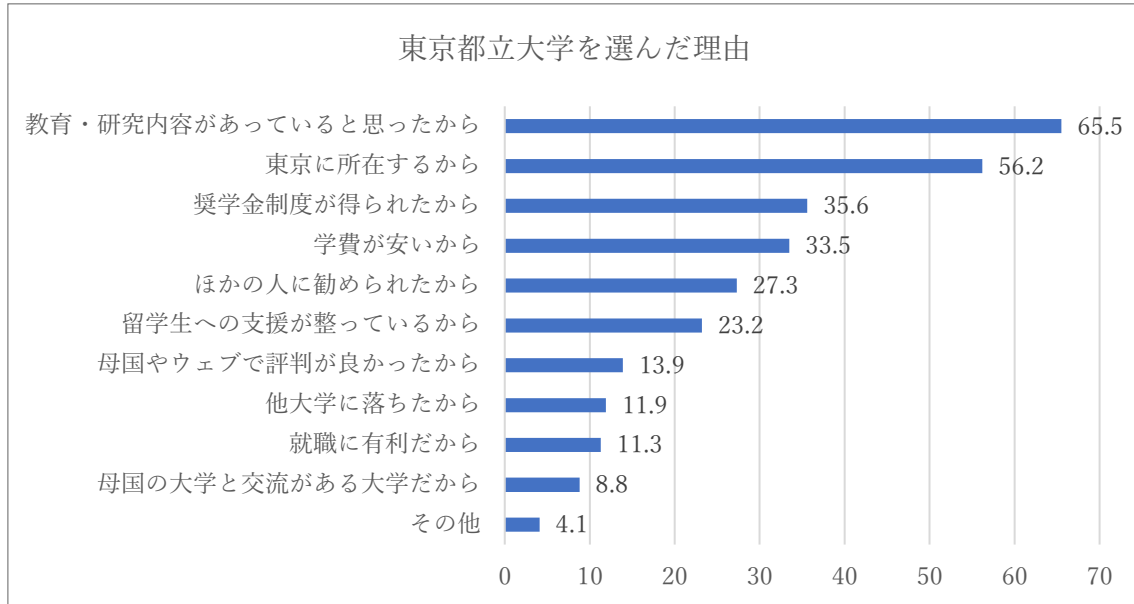
【東京都立大学を知った理由】 どのようにして都立大学を知ったのですか？（3つまで選択可）

数値は194名中、それぞれの選択肢を選んだ割合を示した。

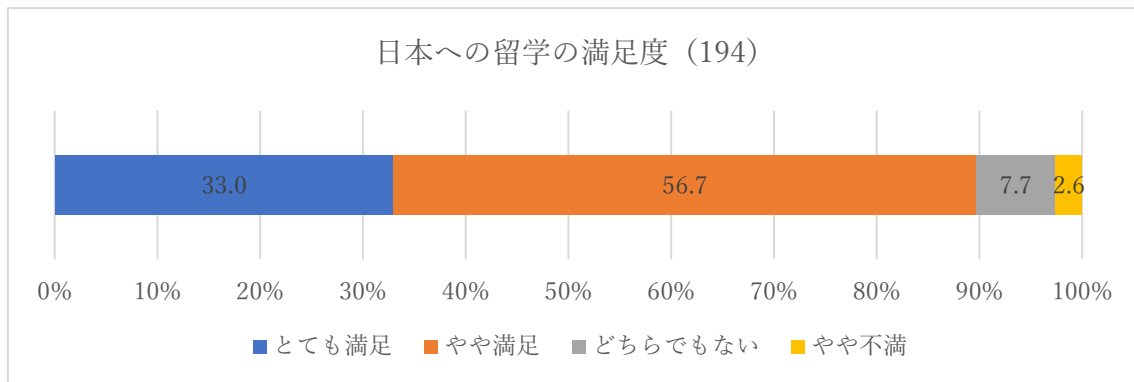


【東京都立大学を選んだ理由】なぜ日本の大学の中で TMU を選んだのですか？（3つまで選択可）

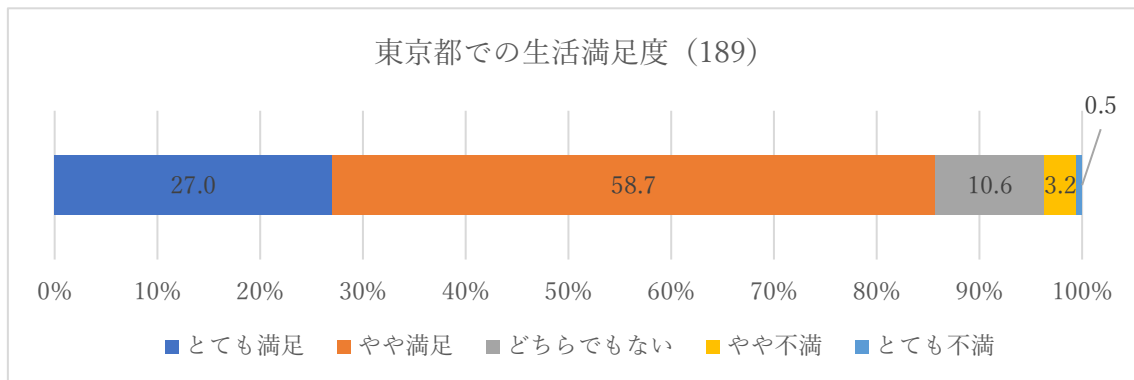
数値は 194 名中、それぞれの選択肢を選んだ割合を示した。



【日本への留学の満足度】全体的に日本への留学に満足していますか？



【東京都での生活満足度】東京都での生活にどのくらい満足ですか？不満ですか？

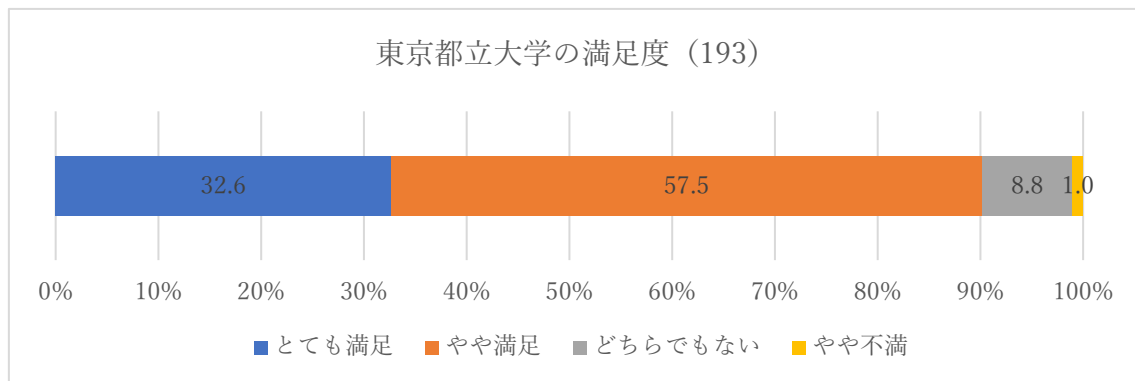


東京都立大学での学業と生活

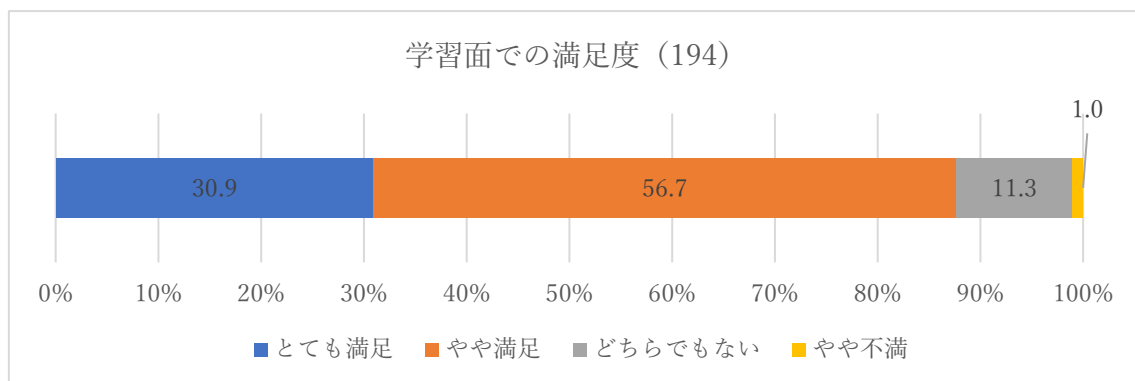
このセクションでは、東京都立大学在学中の学習状況と生活状況についてのデータを提示する。加えて、社会的支援と文化適応について詳しいデータを提示する。

東京都立大学の満足度は高く、約 90%が「満足」「やや満足」と回答した。

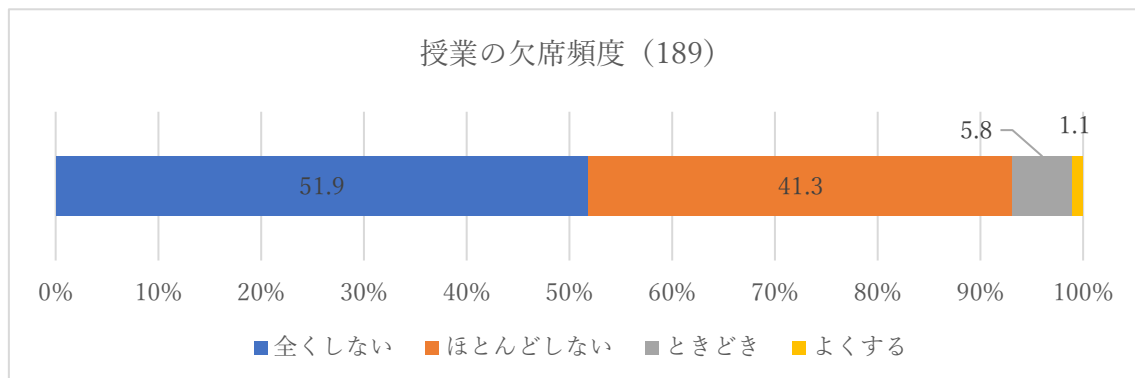
【東京都立大学の満足度】 TMU には全体的にどのくらい満足していますか？



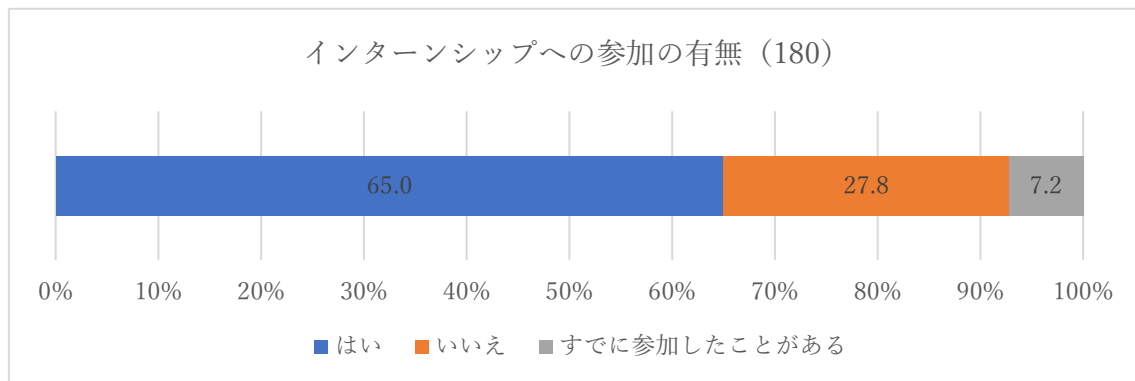
【学習面での満足度】 学習面においてどのくらい満足していますか。



【授業の欠席】 どのくらい授業を欠席してしまいますか。



【インターンシップへの参加】日本でインターンシップに参加してみたいですか？

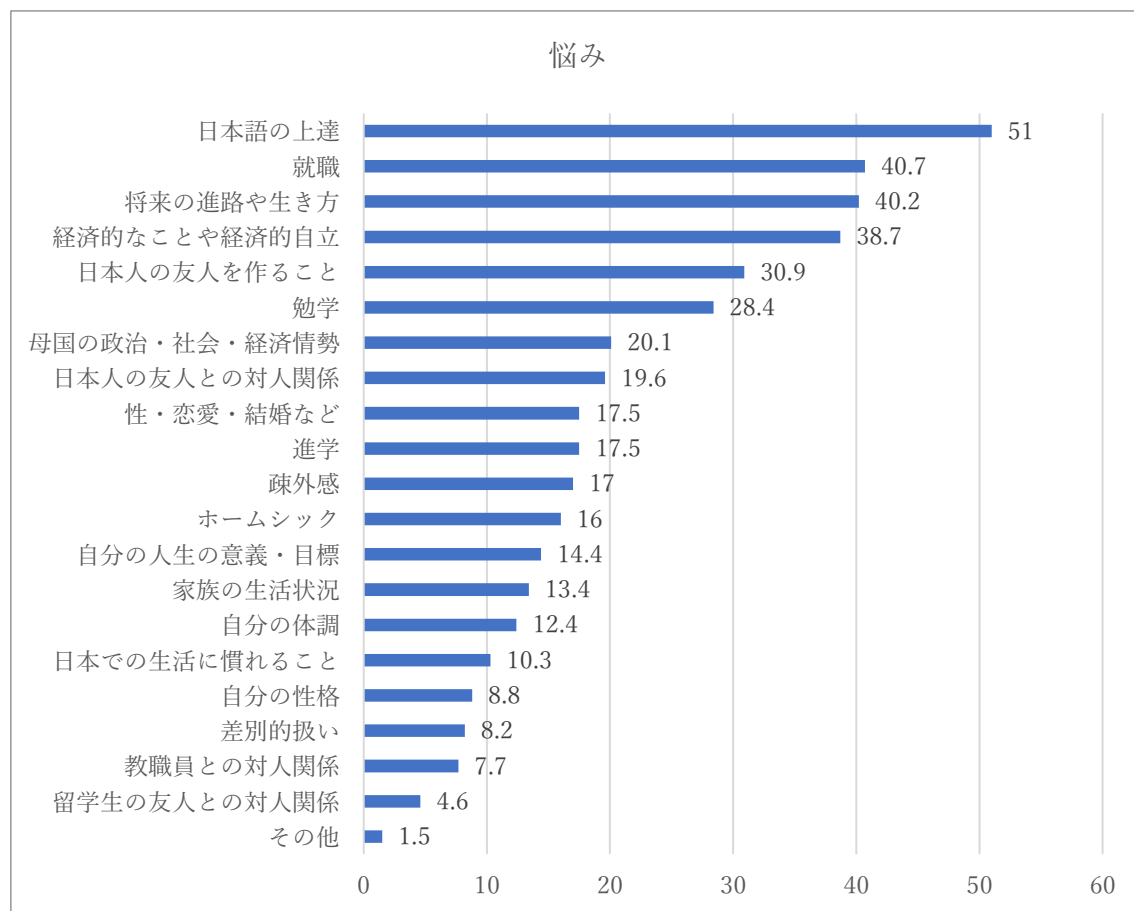


悩み

このセクションでは、留学生が抱える悩みについて明らかにする。その中でも特に、経済的な側面と友人（ソーシャルサポート）について詳しく尋ねたため、その結果を報告する。

【悩みの種類】どのような悩みがありますか？選択肢から選んでください（5個まで選択可）

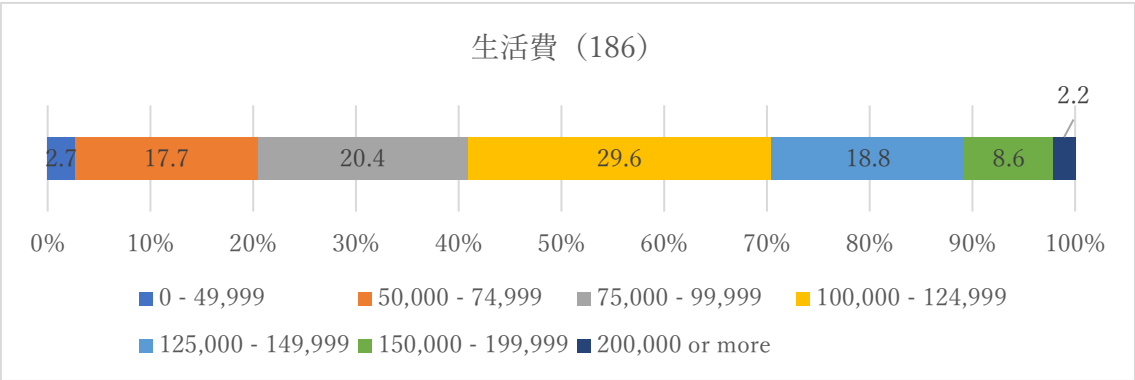
数値は 194 名中、それぞれの選択肢を選んだ割合を示した。



経済状況

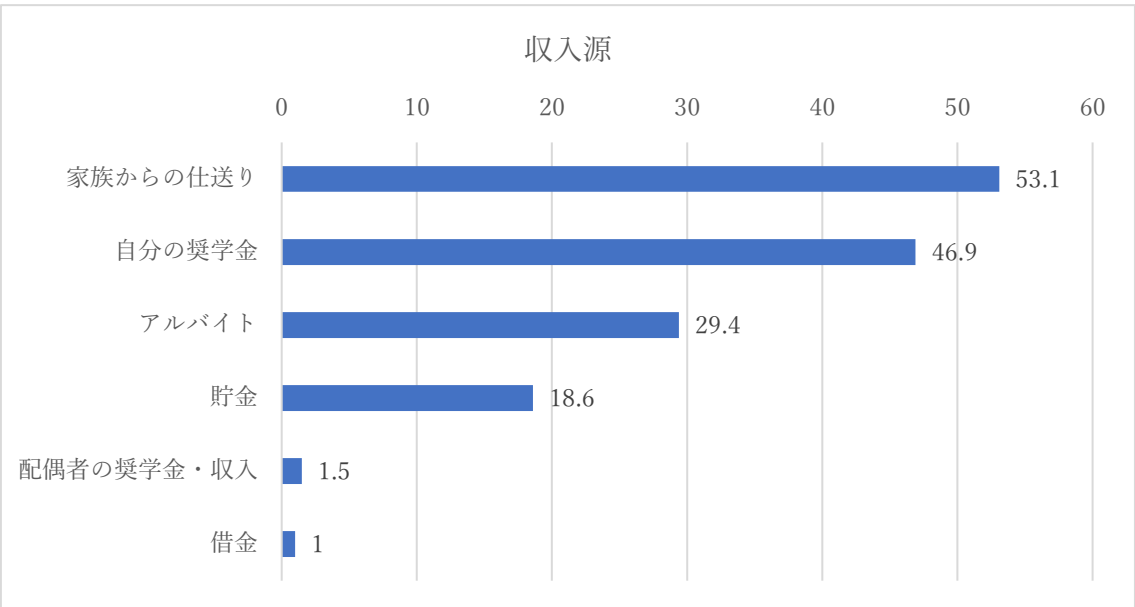
学生の生活費の平均値と中央値は、ともに10万円から12万5千円だった。仕送りと奨学金でその費用をまかなっており、アルバイトをしている学生は約30%だった。回答者の約3分の2が一人暮らしだった。留学に対する満足度は高く、約88%が「とても満足」「やや満足」と回答した。

【生活費】学費以外の生活費は月に何万円ですか？授業料は入れないでください。

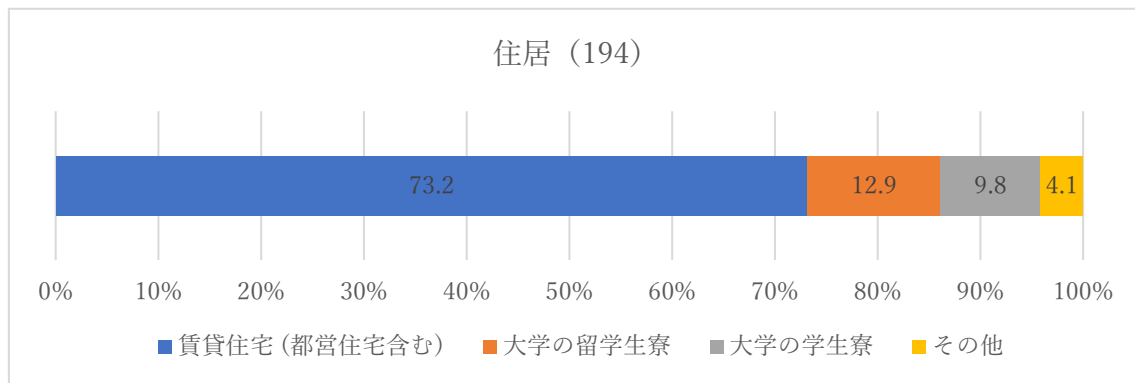


【収入源】どのように生活費をまかっていますか？ 選択肢から選んでください（複数選択可）

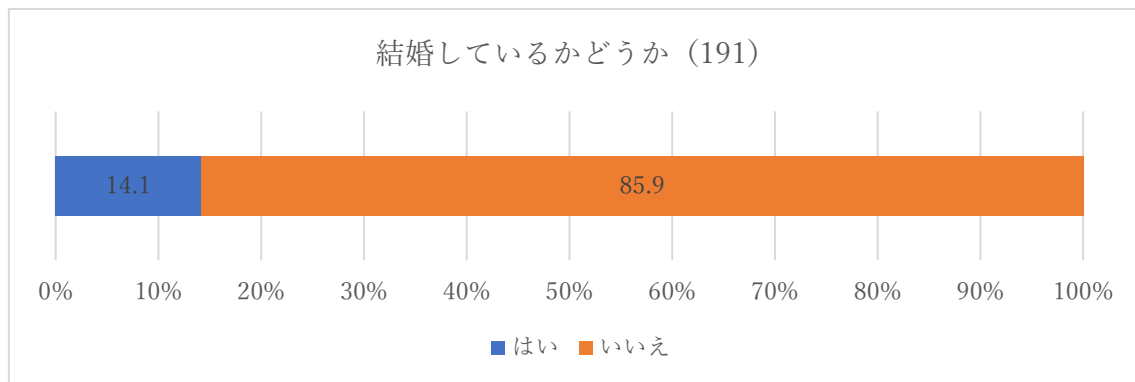
数値は194名中、それぞれの選択肢を選んだ割合を示した。



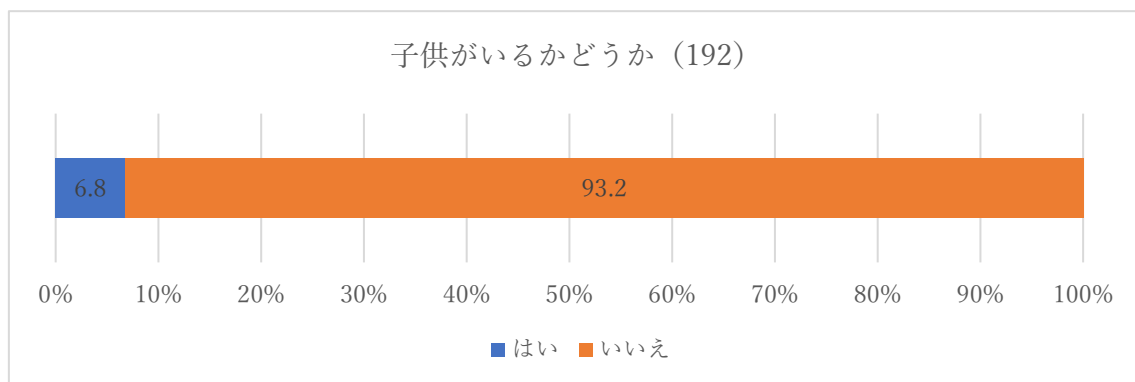
【住居】どのような住居に住んでいますか？



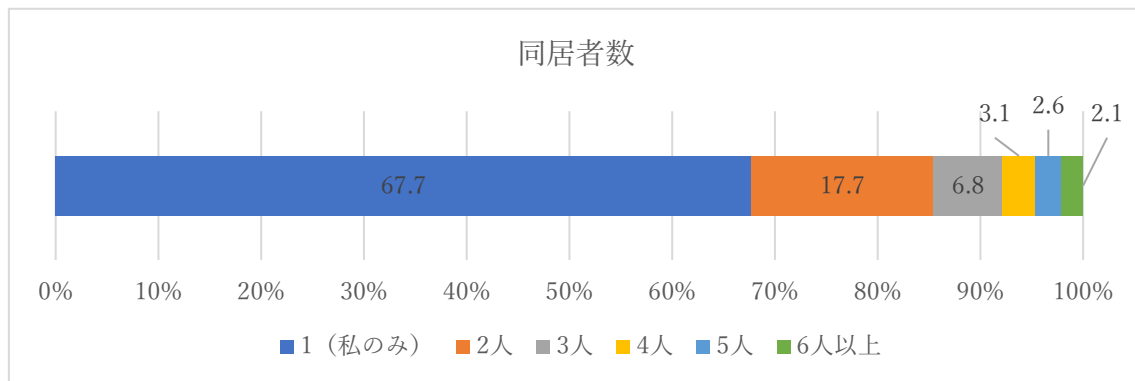
【婚姻】



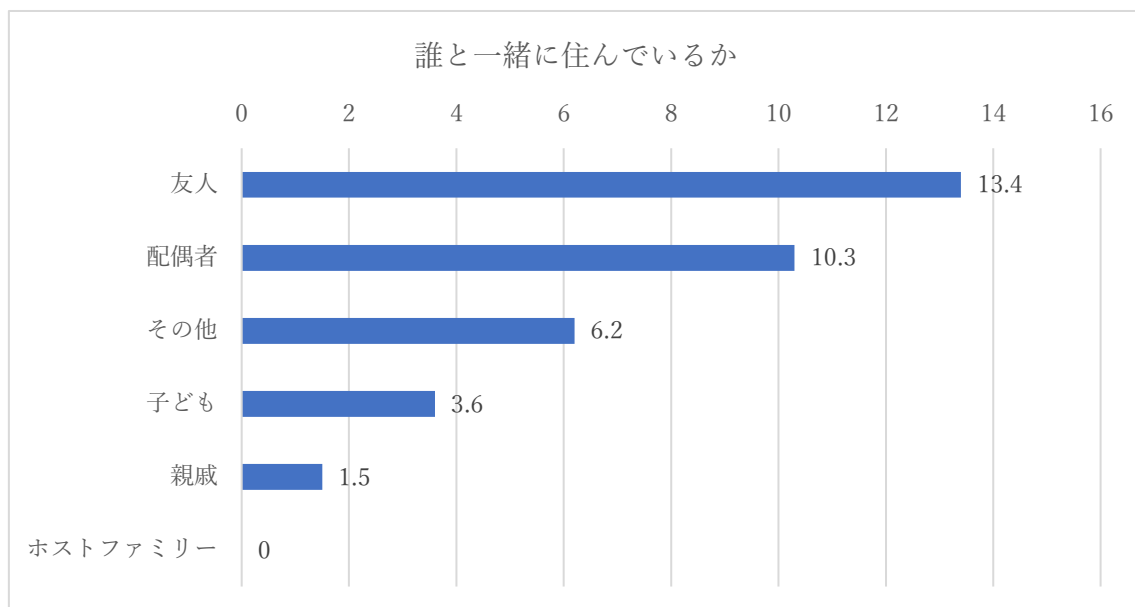
【子ども】



【同居している人の数】

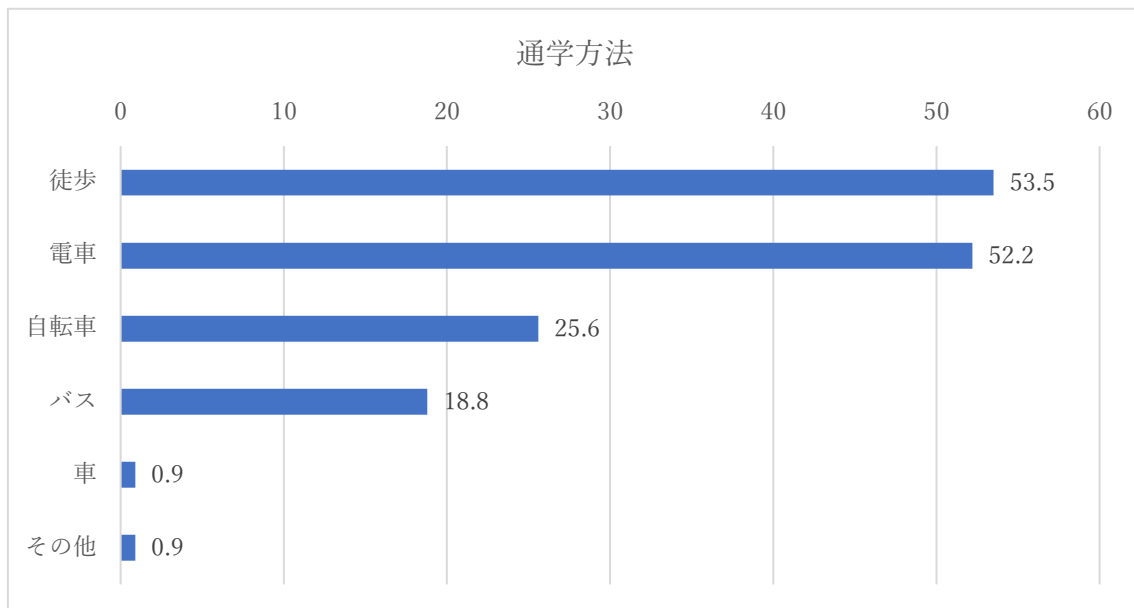


【誰と一緒に住んでいるか】(複数選択可)

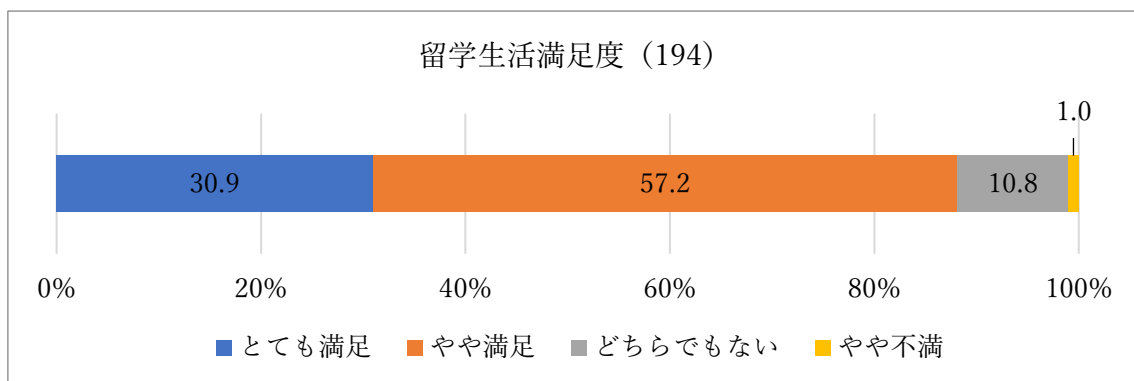


【通学方法】どのように通学していますか？（複数選択可）

数値は 194 名中、それぞれの選択肢を選んだ割合を示した。



【留学生活満足度】留学生活にどのくらい満足していますか？

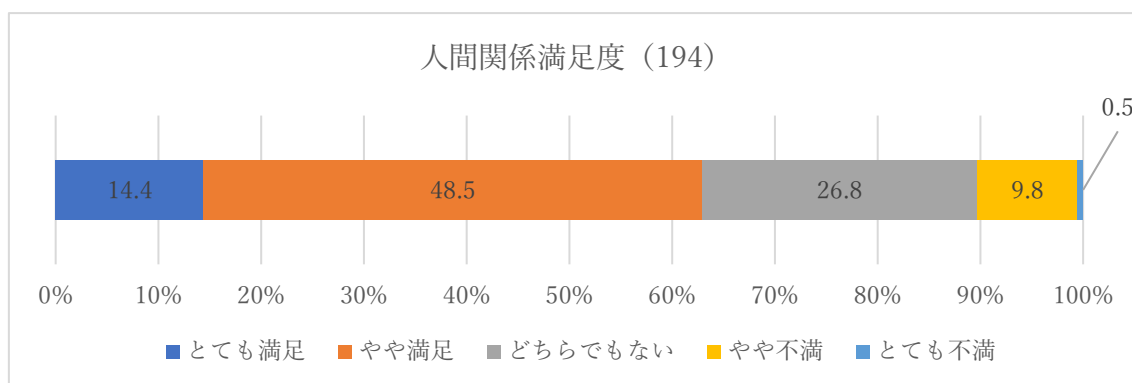


ソーシャル・サポート

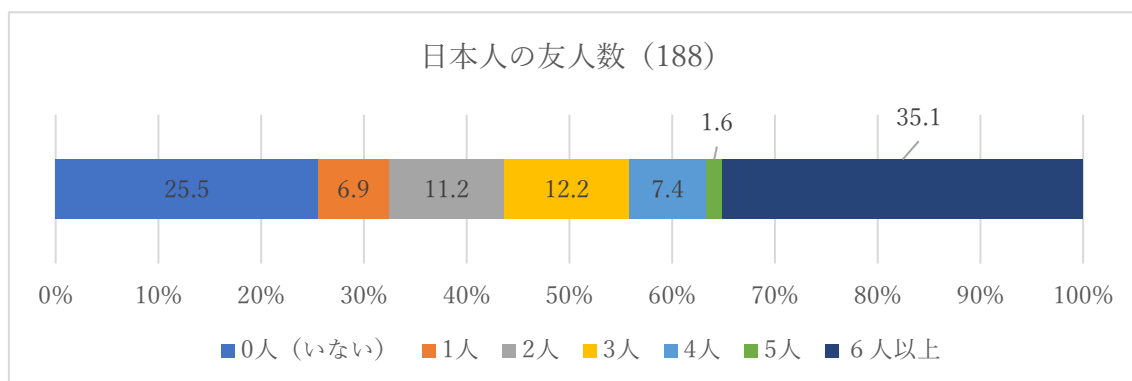
日本人の友人に関しては、約 25%が全くいないと回答する学生がいる一方、35%が 6 人以上いると回答した。同国出身の友人がいると回答した学生は、約 95%に上った。人間関係に満足している（「とても満足」「やや満足」の合計）と回答した人の割合は約 63%で、ほかの満足度と比べるとやや低めだった。

留学生には、情報を提供してくれたり、やりかたがわからないことについて教えてくれたりする友人はいるようだが、さみしい時に話を聞いてくれたり、困ったときに一緒にいてくれる友人がいないと答えた学生が 2 割ほどいた。国際センターでは、困った時には留学生向けのサポートサービスを利用してほしいと考えているが、国際課やチューター（大学院生にはチューターが付いている）に相談する学生は一定数いるものの、留学生相談室を使用したことの学生は、約 23%と高くはない。留学生相談室、留学生交流会、日本語ライティングサポートについては、約 40%の学生が知らないが利用してみたいと回答していることから、国際センターがどのようなサービスを提供しているかの周知に課題がうかがえた。

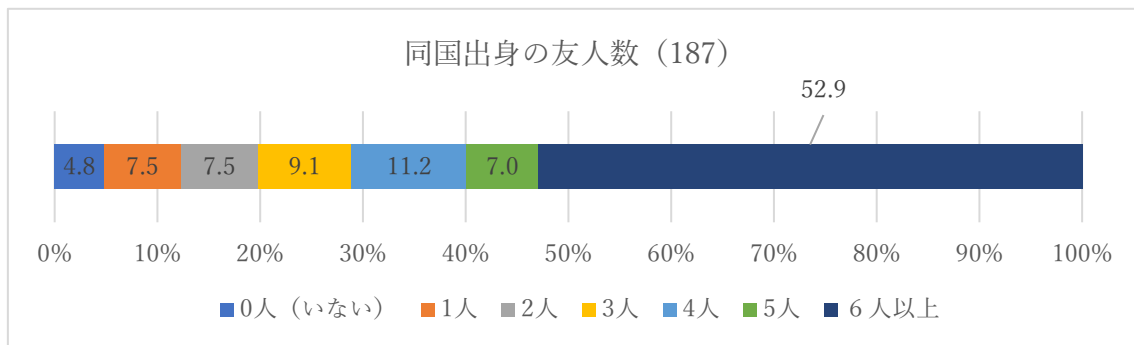
【人間関係満足度】日本での人間関係にはどのくらい満足していますか？不満ですか？



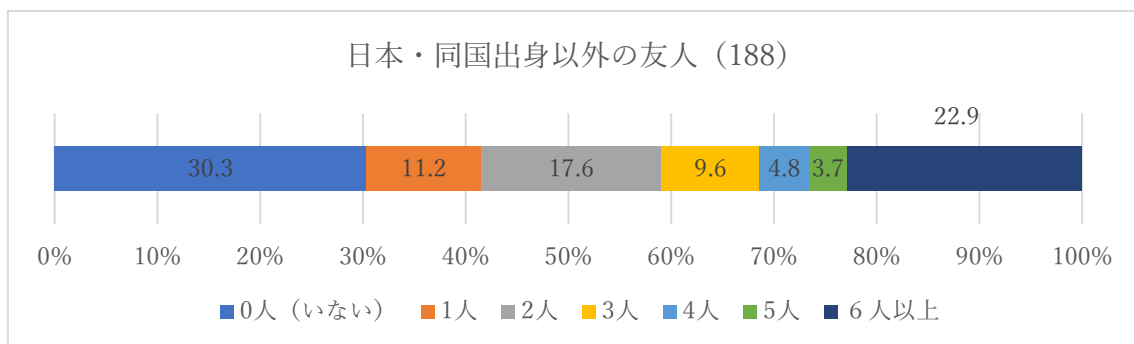
【日本人の友人数】日本人の友人は何人くらいいますか？



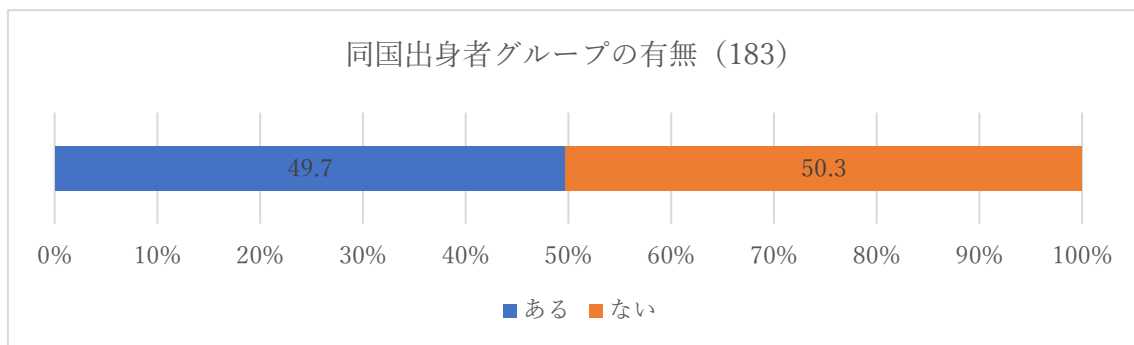
【同国出身の友人数】 母国からの友人は何人くらいいますか？



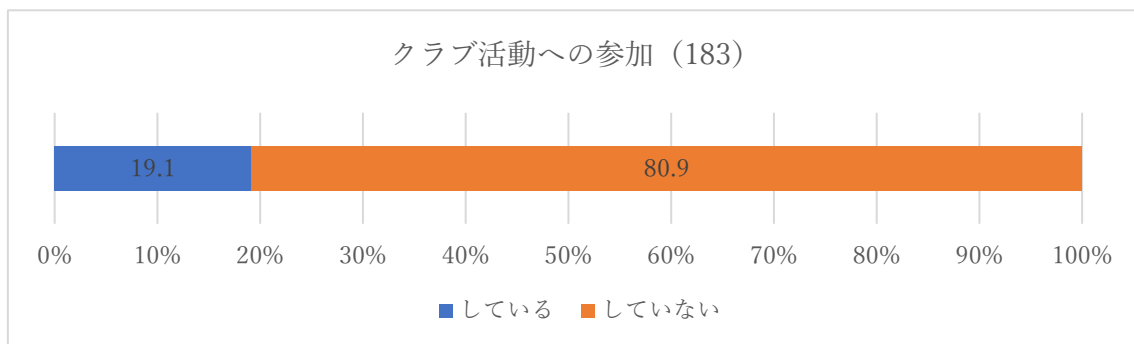
【日本・同国出身以外の友人】 第三国の友人は何人くらいいますか？



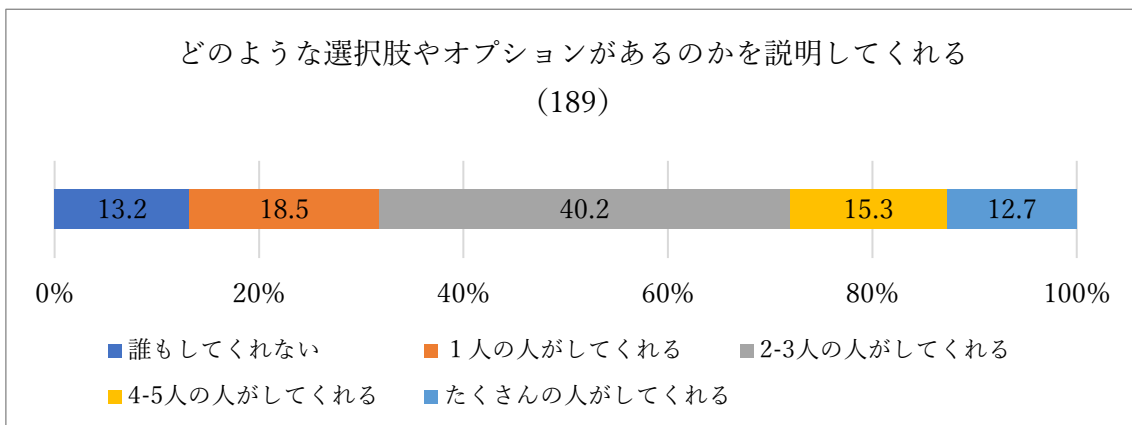
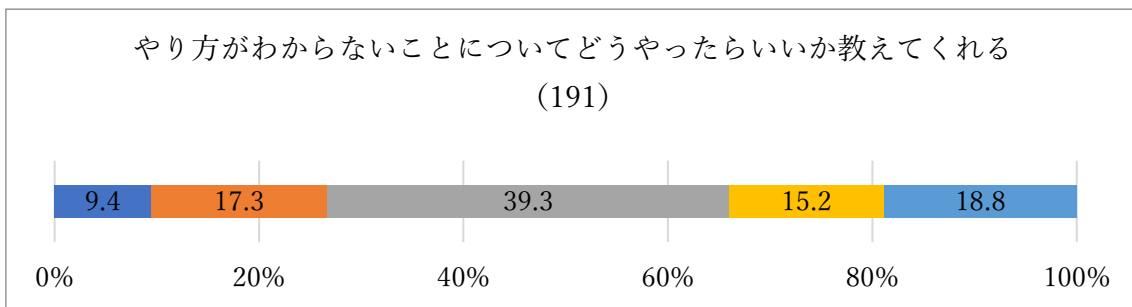
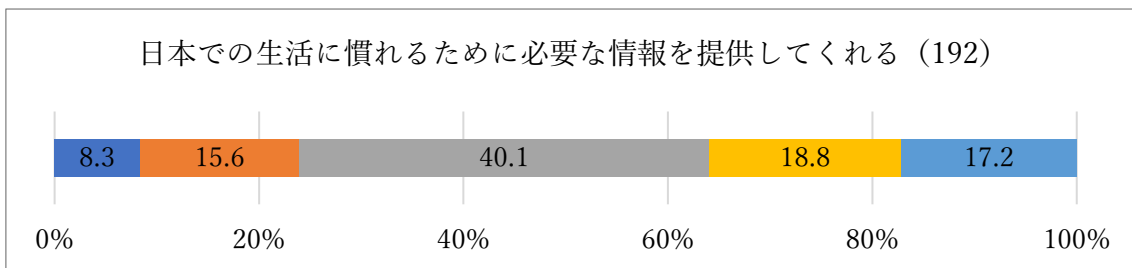
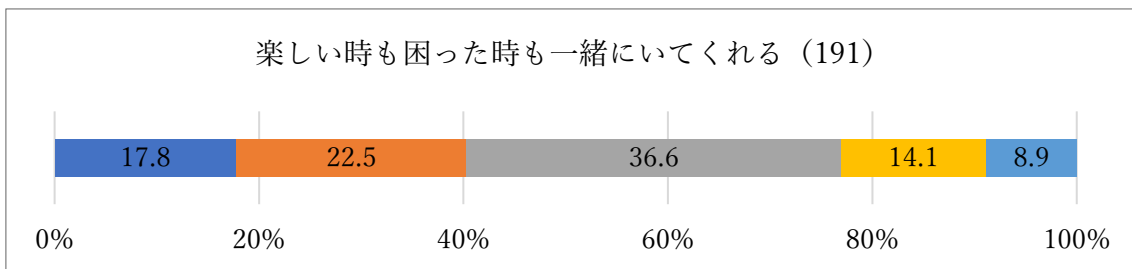
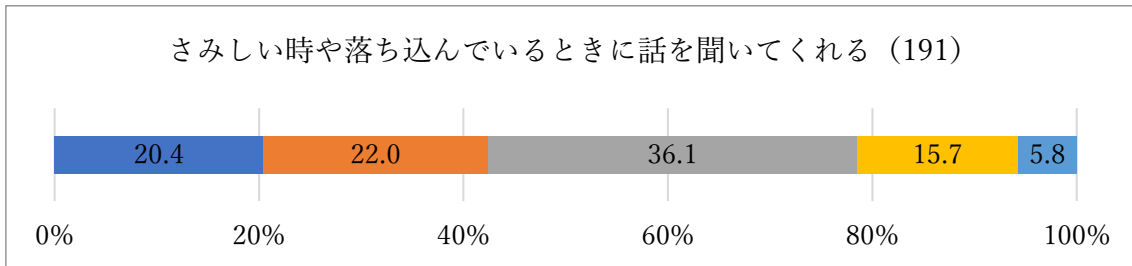
【同国出身者のグループ】 同郷（母国の）組織での交流はありますか？



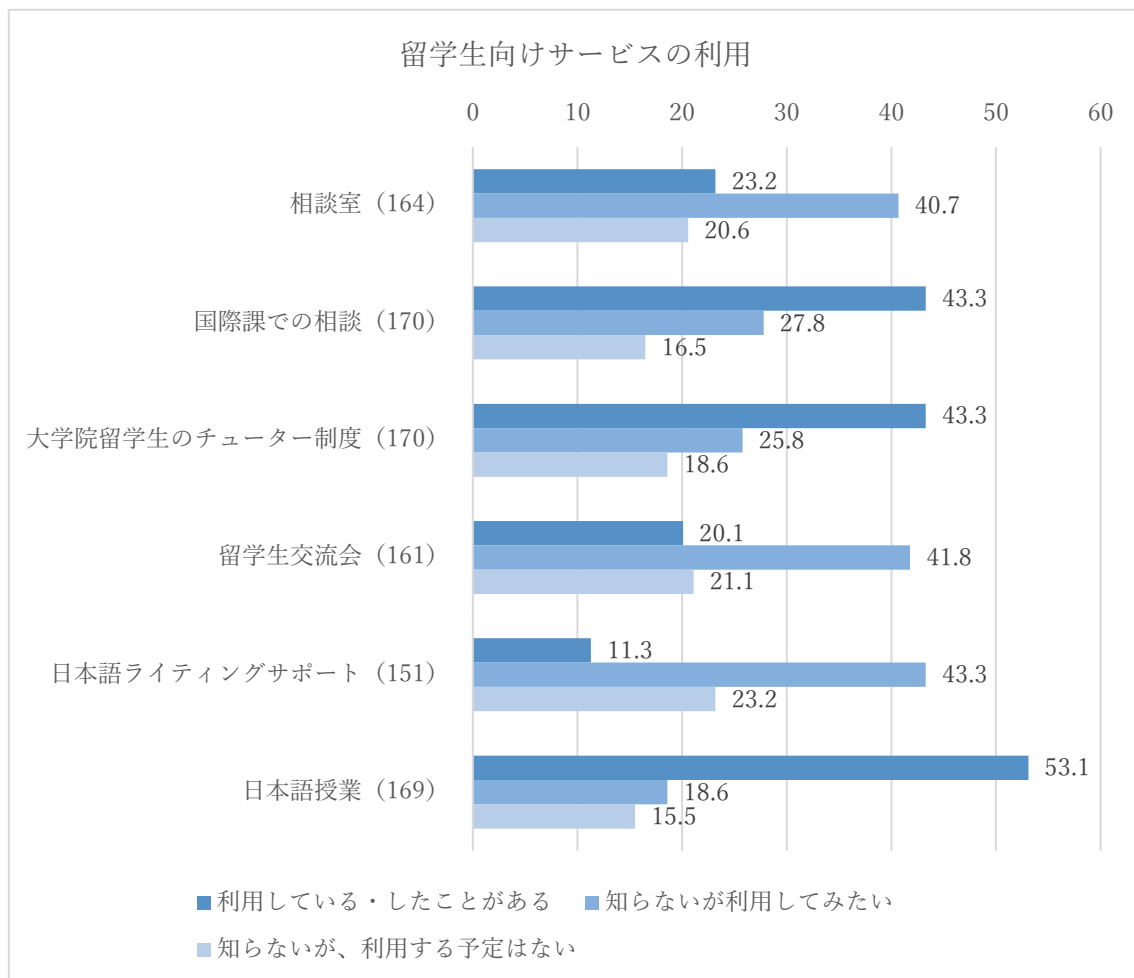
【クラブ活動】 クラブ活動に参加していますか？



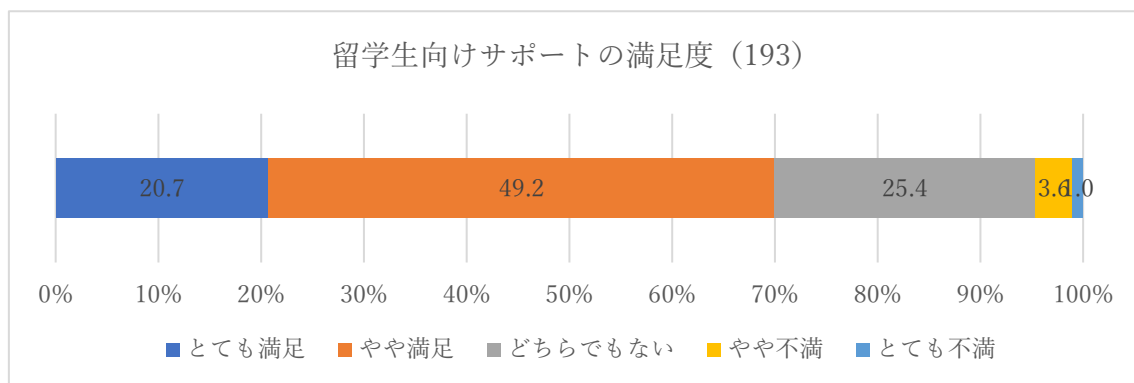
【様々な状況下でのソーシャルサポート】日本にいる友人や家族についてお聞きします。
日本にいる人で以下のことをしてくれる人は、どれくらいいますか。



【留学生向けサービスの利用】 下記の学内サービスを知っていますか？利用してみたいですか？



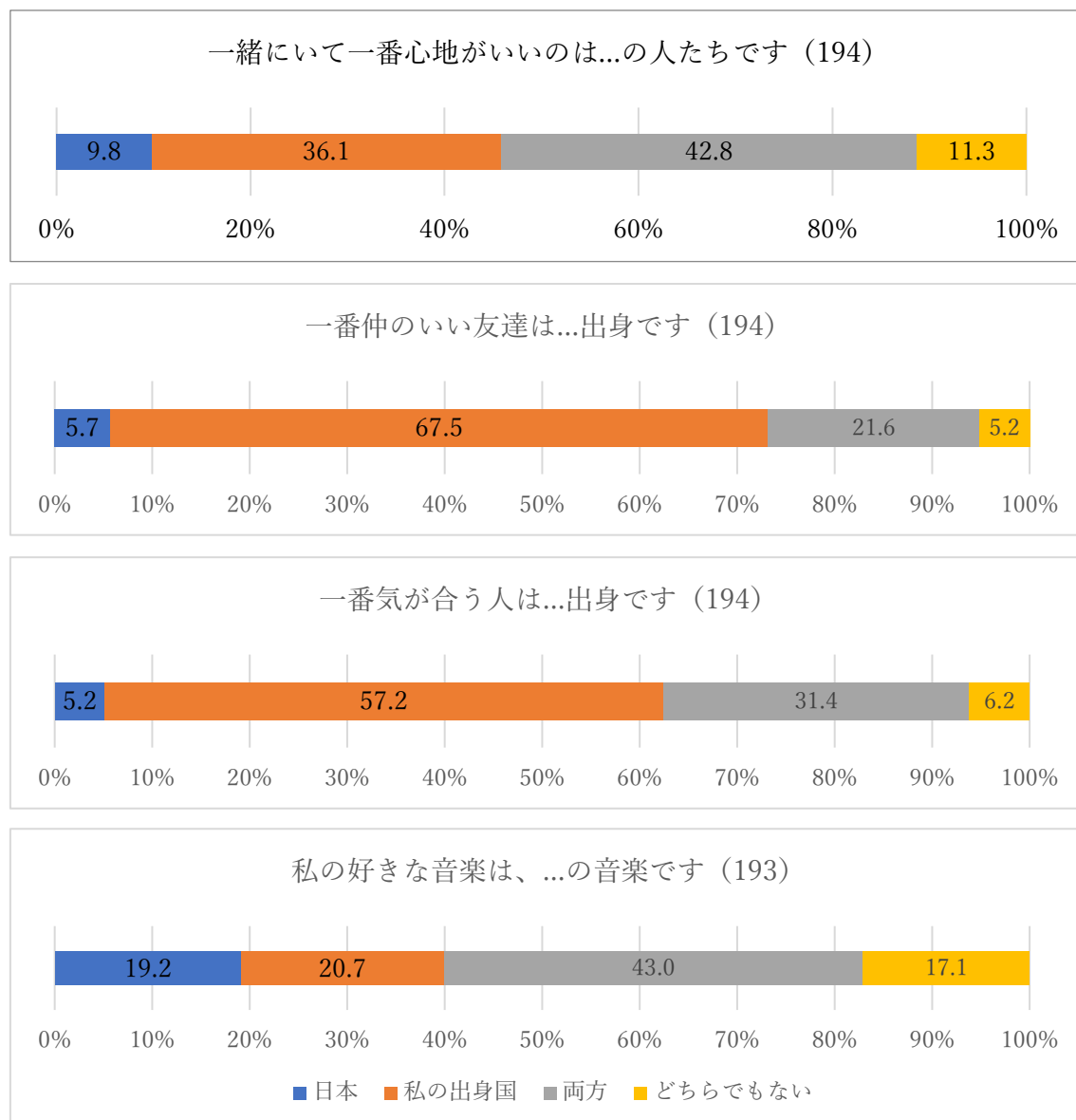
【留学生向けサポートの満足度】 学内の留学サポートにどのくらい満足していますか？不満ですか？



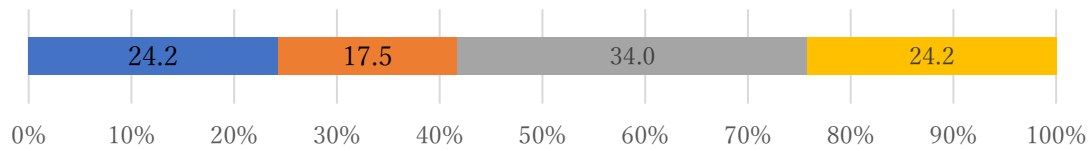
文化適応

日本文化への適応を測定する尺度。前セクションの結果と同様、仲のいい友人や気が合う人になると、同国出身者という回答が多くなる。音楽やテレビといったポピュラーカルチャーや食事、行動では、両国（日本と出身国の両方）と回答する割合が多く、出身国の文化と日本の文化の両方を取り入れている様子がうかがえた。

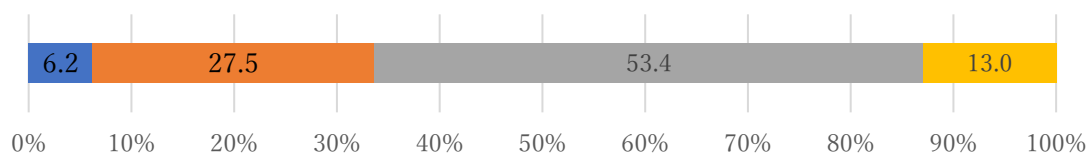
【文化適応】以下の文の空欄にもっともよく当てはまる選択肢を選んでください。



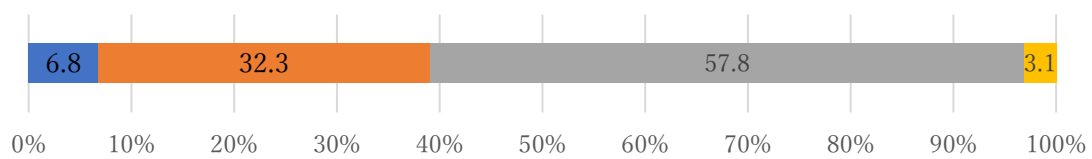
私の好きなテレビやストリーミングの番組は、...の番組です
(194)



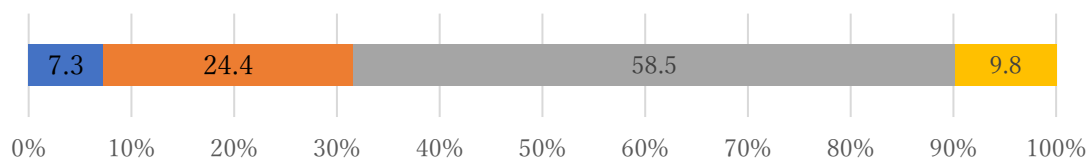
私は...の祝日を祝います (193)



私の家でよく食べるのは、...の料理です (192)



私の考え方や行動の仕方は、...の人の仕方です (193)

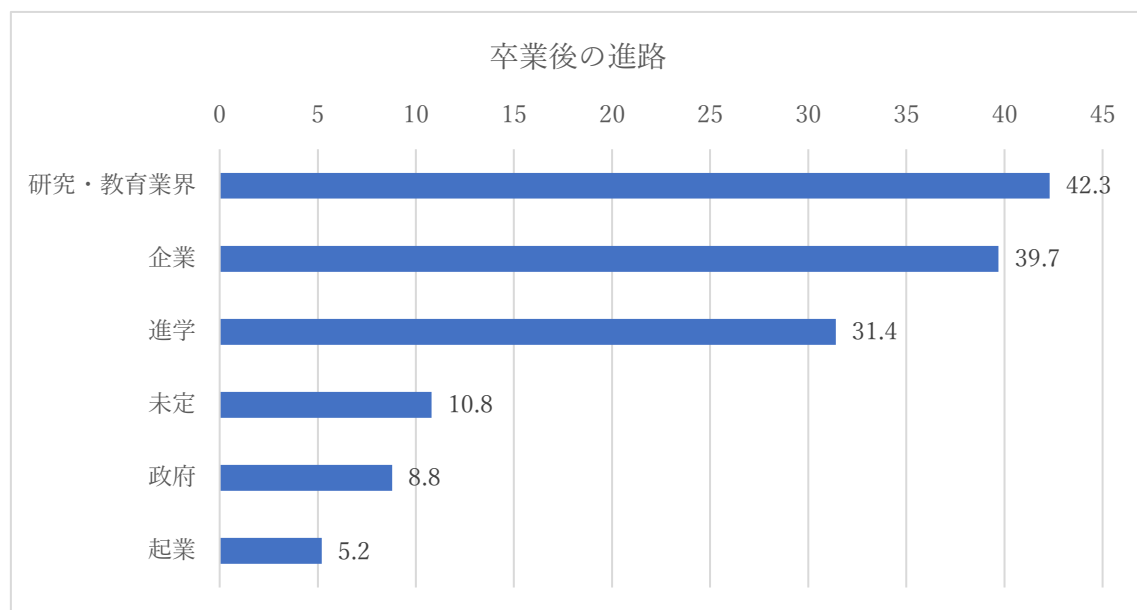


■ 日本 ■ 私の出身国 ■ 両方 ■ どちらでもない

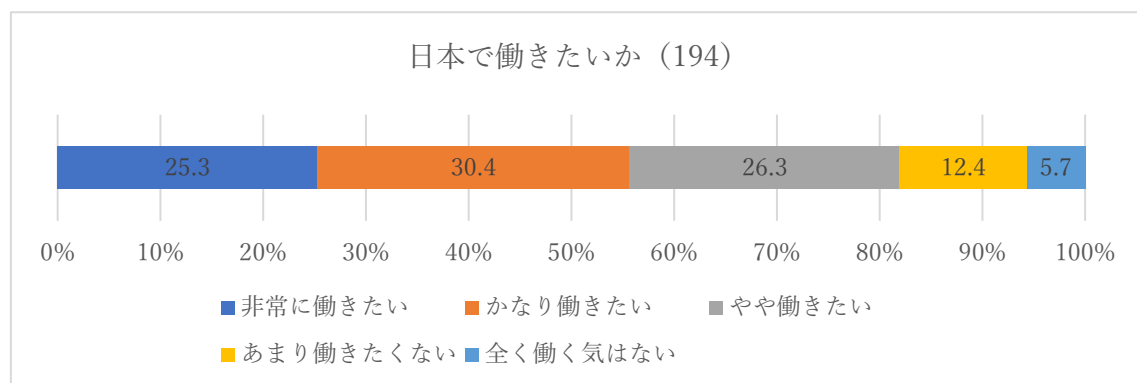
卒業後の進路

大学卒業後の進路について尋ねた。日本で働くことを希望している学生は（「非常に働きたい」「かなり働きたい」の合計）約56%で、全く働く気がない学生が約6%いた。半数以上の学生が4年以内に日本を離れる予定であり、人間関係や日本語・文化が障壁となっているようだ。

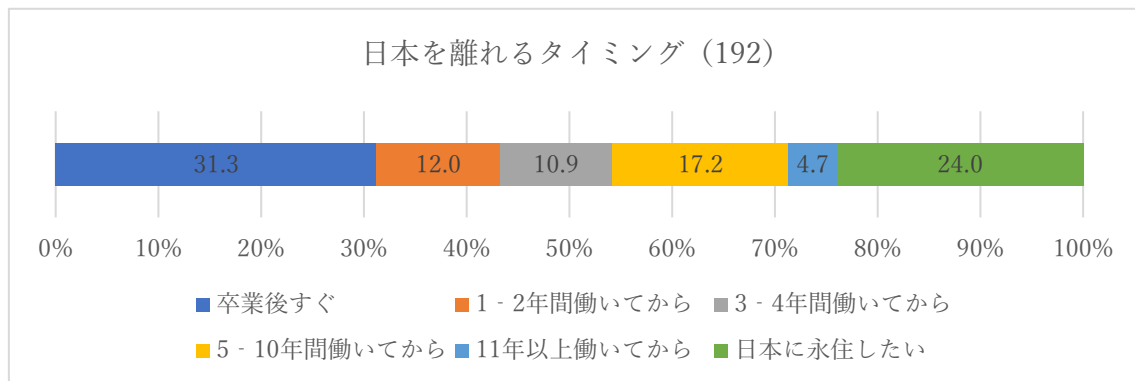
【卒業後の進路】卒業後、どのような進路を希望していますか？（複数選択可）
数値は194名中、それぞれの選択肢を選んだ割合を示した。



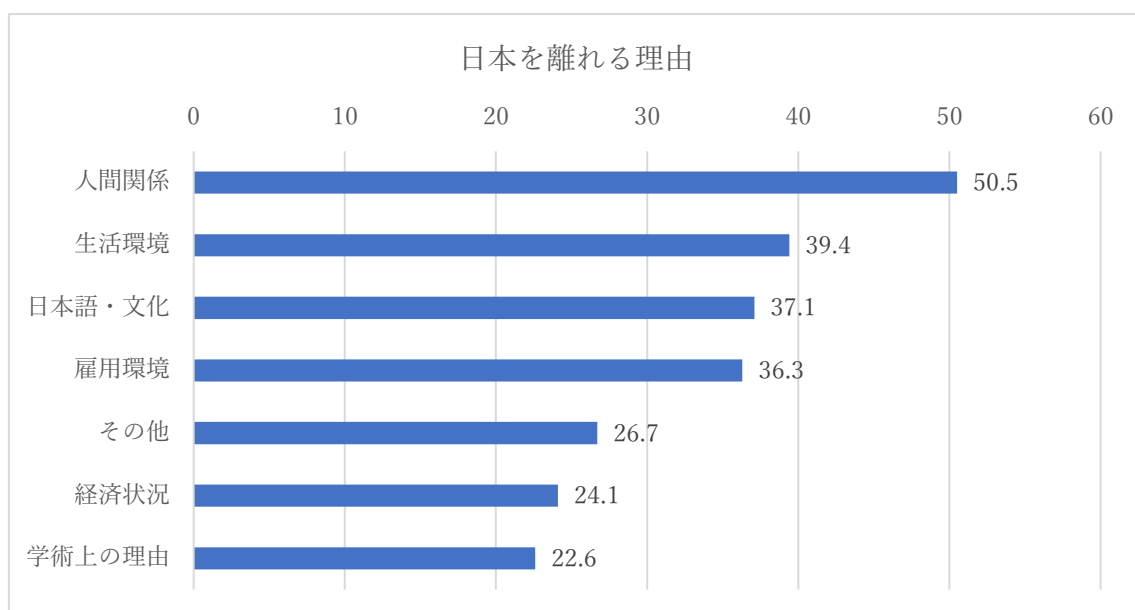
【日本で働きたいか】卒業後、どのくらい日本で就職して働きたいと思っていますか？



【日本を離れるタイミング】 いつ日本を離れる予定ですか。



【日本を離れる理由】 (いつ日本を離れる予定ですか？という質問に対し、「日本に永住したい」を選択した人以外が回答) 将来住む場所として日本以外を選んだ人に質問です。その理由はなぜですか？回答したのは、146 名。(複数選択可)
数値は 146 名中、それぞれの選択肢を選んだ割合を示した。



終わりに

東京都立大学で初めてとなる留学生全数調査 2022 を通して、東京都立大学で学ぶ留学生の生活実態が本データから読み取れた。留学生の日本での就職促進が進められているが、留学中に日本での生活に障壁を多く感じると、日本でのキャリアに消極的になると考えられる。本報告書では、一変量のデータ分析の結果を提示したが、今後はクロス集計や回帰分析といった二変数以上の関連を分析し、どのような特徴を持つ学生が障壁を感じるのか、日本で働きたいと思うのかといった研究を進めていく予定である。本報告書の結果とともに、今後の分析結果が、留学生の生活面での困難を減らし、学業に専念できる大学環境作りに役立つことを願う。

発行 東京都立大学国際センター
2023 年 3 月

問い合わせ
伊藤大将 (dito@tmu.ac.jp)